

豊橋市制施行100周年記念

校区のあゆみ

# 向山

豊橋校区史

21

*Mukaiyama*









豊橋市制施行100周年記念

# 校区のあゆみ 向山



「自然がいっぱい大池！」向山小学校・野本あさみ

# 向山緑

向山大池

野鳥集う

緑豊かな大池



向山の大池

つつじまつり



春



大池のさくら

秋



もみじの紅葉



春まつり

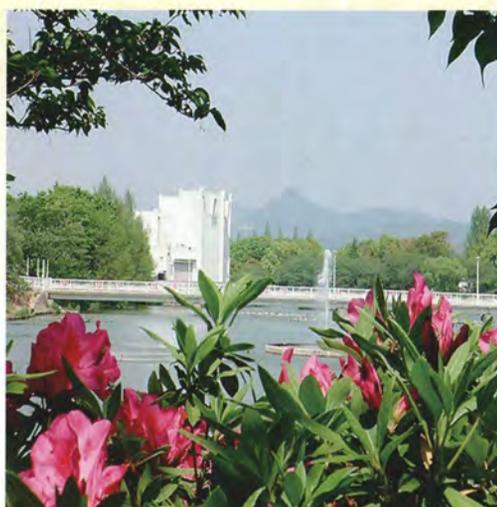
# 地 公 園

向山緑地

季節を告げる公園



梅林園の梅



大池のつつじ



梅林園



雅姫と琴姫

琴の演奏



のど自慢大会

# 3世代ふれあい活動

毎年行われる学校・総代会が協力して子供たちとお年寄りとの交流の場



三世代交流 わなげ



アートを楽しむ



スリッパとぼし



まめつかみ



うどん作り



魚つり

# 発刊によせて



平成18年度  
豊橋市総代会長

西 義 雄

このたび、豊橋市制施行100周年を記念し、「豊橋校区史～校区のあゆみ」を発刊する運びとなりました。皆様のご協力により記念事業にすばらしい彩りを添えることができましたことを、心よりうれしく思います。

この事業は、100年の節目を契機に地域の歴史や文化、自然などを改めて見つめ直し、将来の夢に思いを馳せていただくものであり、51校区すべてが足並みを揃え発刊できたことに、たいへん大きな意義を感じています。また、各校区におきましては、編集委員を中心に多くの地域住民の皆さんが資料の収集や原稿の執筆などに携わられたことと思います。こうした取組みを通し、地域の絆がさらに深まったものと考えています。

地域イベントの開催を含め「市民が主役」を合言葉に行政と協働で進めてきた100周年記念事業ですが、多くの地域住民の方々が様々な形で挙って参加できたことが何よりの成果であったと思います。今後におきましても、この100周年記念事業を一過性のものに終わらせるのではなく、次の100年に繋げていかなければならないと考えています。

最後に、本校区史の発刊にあたり、多大なご協力を頂いた多くの皆様に改めてお礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



平成18年度  
向山校区総代会長

中 尾 眞 次

向山校区の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

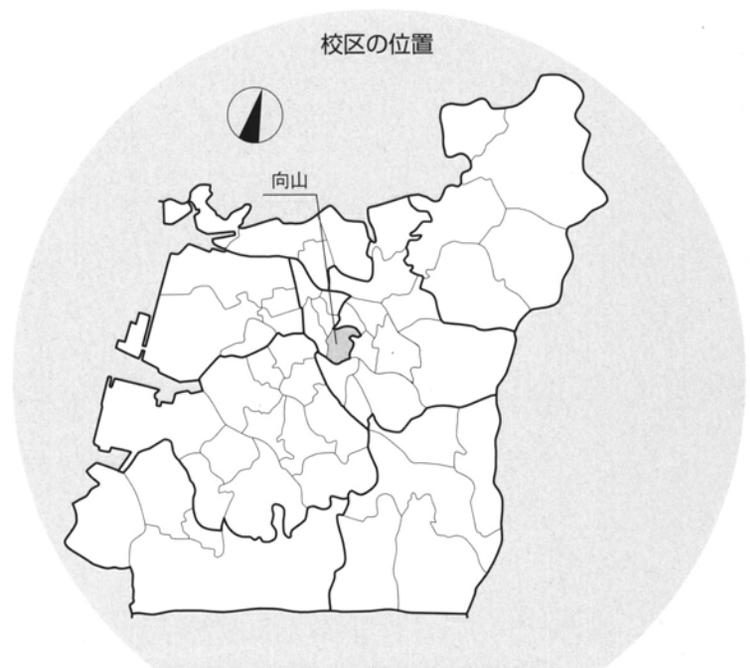
このたび、豊橋市制施行100周年記念事業の一つとして豊橋校区史「校区のあゆみ向山」を刊行することとなりました。この刊行に際して、編集に携わった委員の皆様や地域の皆様方大変なお力添えをいただき発行できますことを深く感謝申し上げます。

校区の皆様お一人お一人がこの校区史をお読みいただき、自分自身が住んでいる向山校区が歩んできた歴史や地理などを知ることにより、一層の関心を持っていただくきっかけになればと思っています。

豊橋市の中心市街地として、文化の街・明るく住み良い街として、三世代ふれあいフェスタなどの行事を通して校区民の親睦と連帯意識の高揚を図りたいと思います。

向山校区は、向山緑地公園など自然環境に恵まれています。今後は、まちなかの貴重な自然環境の保全に努め、犯罪や交通事故のない安心して過ごすことができる街にしたいと思います。校区の皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。

第1章 自然と環境		(2) 豊橋商業高等学校	33
1 瓦町と向山	7	(3) 豊橋東高等学校	34
2 気候	7	(4) 不動院幼稚園	35
3 自然	8	(5) 寿泉寺幼稚園	35
(1) 植物	8	2 宗教	36
(2) 動物	9	(1) 神社	36
(3) 大池の自然	10	(2) 寺院	37
第2章 歴史と生活		(3) 教会	39
1 瓦町村の開村	11	3 施設	39
2 仁連木村分地	13	(1) 文化施設	39
3 工兵隊	13	(2) 向山緑地公園・近隣公園	41
4 向山校区の製糸と養鶏	15	(3) 都市施設	43
(1) 製糸	15	(4) スポーツとスーパーマーケット	44
(2) 養鶏	16	(5) 瓦町郵便局	46
5 耕地整理と区画整理	16	(6) 金融機関	46
(1) 向山西部地区	16	4 伝説と伝承	46
(2) 瓦町地区	17	(1) 宮裏のお地藏様	46
(3) 向山東部地区	17	(2) 大池の水神様	47
6 昭和初期の瓦町と向山	18	(3) 梅屋敷物語	48
7 豊橋高等女学校	19	5 人物	48
8 動物園と豊橋空襲	19	(1) 池野 英龍	48
9 周辺地区の推移と向山小学校の開校	20	(2) 石川躰次郎	49
10 国道1号、豊橋環状線、バス	21	(3) 小柳津友治	49
(1) 国道1号	21	(4) 金子 功	49
(2) 豊橋環状線	21	(5) 小坂 英一	50
(3) バス	22	(6) 佐藤 弥七	50
11 向山校区のスタート	23	(7) 豊田珍比古	50
(1) 町内と校区の変遷	23	(8) 丸山 薫	51
(2) 校区の活動	24	編集後記	52
(3) 各種団体の活動	25		
(4) 校区市民館の活動	27		
(5) 県営瓦町住宅	27		
12 向山緑地内の催し	28		
(1) うめまつり	28		
(2) さくらまつり	28		
(3) つつじまつり	28		
第3章 教育と文化			
1 学校と幼稚園	29		
(1) 向山小学校	29		



# 第1章 自然と環境

## 1 瓦町と向山

東田・向山台地は、朝倉川と柳生川の間の豊橋上位面といわれる洪積台地で、江戸時代初期の仁連木村（豊橋市東田町）といわれた地域である。仁連木村の中央には東海道が東西に通っていたが、寛文4年（1664）、東海道に沿った瓦町村が開村し、台地の南側一帯の草刈場が仁連木村分地になった。

瓦町については、「河原町開発覚」という瓦町村の庄屋・佐藤弥七郎の記録が残されている。河原町と書いてあるが、瓦町のことである。褐鉄鉱を含んだ赤土を原料とする屋根瓦焼きが盛んで、現在も三ノ輪・飯村のあたりには瓦屋があり、権左池などの土取場の跡がある。最も古い鬼瓦に「三州吉田河原町細井新兵衛作 元禄二年巳三月吉日」という刻銘がある。不動院の鬼瓦にも「元禄十五年七月 日 瓦町新兵衛仕之」とある。



不動院に伝わる元禄15年銘の鬼瓦

向山は、明治初年までは仁連木村分地といっていた。仁連木村分地に関する記録は見あたらないが、江戸時代末期に製作された「東海道分限延絵図」（文化3年）と「宿村大概帳」（天保14年）に、仁連木村分地があらわれる。分地というのは独立した村ではないので、庄屋や鎮守はなかったようだが、村高の記載があるので、村内の枝郷よりは独立性が高い。

仁連木村分地は、豊橋町と豊橋村が合併した明治28年（1895）に大字向山となった。向山というのは、仁連木村から見て向こうの方にある山、すなわち草刈場という意味である。本村から少し離れた里山から肥料にする草や燃料の薪木をとる所である。向山という字名は、豊橋市内にも8か所、東三河全部では63か所ある。明治のはじめまで人家はほとんどなく、出作の農小屋があるに過ぎない場所である。水神池と大池を結ぶ三本川に沿って水田があるが、ほとんど畑地である。

文化3年（1806）版「東海道分限延絵図」には、殿田橋の所に一里塚があり、右は飯村、左は仁連木村とあり、殿田橋と山中橋との中間から「仁連木村分地」とある。山中橋をこえる左右ともに仁連木村分地で円六橋から十王坂まで433間（787m）が瓦町村である。

## 2 気候

豊橋の気候は、夏は高温多雨、冬は冷涼で乾燥している。梅雨期・台風期の雨量は多い。向山は西の方から見ると約20mほどの高台な

ので、冬季の北西の空っ風が強く、体感温度を低くしている。参考のため、平成15年(2003)・同16年(04)(豊橋市中消防署)の月別平均気温と月別降水量を記しておく。

区分 月	月平均気温		月降水量	
	H15 ℃	H16 ℃	H15 mm	H16 mm
1	5.0	5.1	118	24
2	6.5	7.1	87	42
3	8.5	9.5	112	84
4	15.1	15.5	160	94
5	18.8	20.1	123	242
6	22.7	23.6	128	191
7	24.0	28.4	246	51
8	26.5	27.2	339	68
9	25.1	25.4	184	131
10	17.5	19.0	64	660
11	15.5	15.1	182	104
12	8.4	9.8	28	130
年間	16.1	17.2	1,771	1,821

### 3 自然

向山校区には、つつじ祭りの行われる大池公園や、桜祭りの行われる向山公園、梅祭りの行われる梅林園、交通児童館のある交通児童遊園など大小たくさんの緑地がある。これらの緑地には多くの植物や動物が見られ、年間を通して市民の憩いの場となっている。

#### (1) 植物

2月は梅、4月は桜、5月はつつじと言われるように、向山の緑地は市内の花の名所になっている。この他にも、いろいろな樹木が植えられていて、四季の変化を楽しむことができ、豊橋市内の多くの人が見物に訪れている。

##### ① 大池公園の樹木

大池公園には、約2万本のつつじが植えられていて、市内随一のつつじの名所となっている。

高木の常緑樹として、アラカシ、カイツカイブキ、クスノキ、ヤマモモなど10数品種が植えられている。

高木の落葉樹として、イチョウ、ケヤキ、メタセコイア、サクラ(ソメイヨシノ)、フジなど10余りの品種が植えられている。

低木の常緑樹として、つつじ、トベラ、キンモクセイ、サザンカ、マサキなどが、低木の落葉樹として、アジサイ、ハナズオウ、ユキヤナギなどが植えられている。

##### ② 向山公園の樹木

昭和38年(1963)頃から各種民間団体により植えられたのが始まりで、現在数多くの桜の木(ソメイヨシノ)が植えられ、桜の名所として有名である。また、向山墓苑との遮蔽用として境界にアオキが植えられている。向山公園には、サクラ、イチョウ、クスノキ、クロマツ、サクラ、フジなどが植えられている。

##### ③ 梅林園

昭和57年(1982)～同59年(84)の3か年で都市景観事業の一環として建設された。青軸、桜狩、鹿児島紅、小梅など20種類以上の梅の木が植えられている。ここも市内随一の梅の花の名所で、花の見頃の2月下旬には多くの人が訪れる。



梅林園

梅の実が大きくなるころ、向山小学校の1年生から3年生が生活科や総合的な学習の時

間の一環として梅の収穫を行い、梅ジュースや梅干し作りを行っている。2月の始め頃に、清掃活動を行っている。

市の調理員さんたちが、梅林園で収穫して作った梅干しが、豊橋市の全小中学校の学校給食として出されている。

#### ④ 大池の草や花

大池公園は、昭和42年（1967）から大池を整備し、各種の樹木を植えて作られた公園である。池の数か所の水ぎわには、アシ、カキツバタ、ショウブ、ツユクサなどが生えている。また、ホテイアオイやカヤツリグサの類も見ることができる。

池の周りには、背の高い木と低い木が植えられている。空き地は遊歩道と芝生になっていたが、今日では、芝生より繁殖力の強いシロツメクサやメヒシバ、オオバコなどを見ることができる。このほかにも、オオイヌノフグリ、カヤツリグサの仲間、ススキ、ヨモギなど多くの草花が見られる。

## (2) 動物

### ① 水の中の生物

大池でよく見られる生物としては、コイ、フナ、タナゴ、ライギョ、ブラックバス、カエル、カメ、スッポンなど淡水に住む生物がいる。池に魚やカメなどを放す人もいる。水の出入りのない大池で、水や水草がくさると、悪臭が出たり、魚が死んだりしてしまう。そこで、水草を食べるソウギョを放し、浄化した。

### ② 花に集まる虫

春の公園には、タンポポ、シロツメクサ、レンゲソウなどが生えており、これらの花に集まる虫として、キアゲハ、ベニシジミ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ミツバチ、ハナアブなどがある。

### ③ 林にいる虫

夏には、公園に生えている木々にいろいろな種類の虫がよってくる。

木々の樹液を吸うカブトムシ、クワガタ、カナブンや夏らしさを伝えるクマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシなどがある。

### ④ 草むらにいる虫

秋の草むらには、クツワムシ、スズムシ、コオロギなどのひげの長い虫やオンブバッタ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタなどのひげの短い虫がいる。

空には、オニヤンマ、キイトンボ、シオカラトンボ、アキアカネなどが見られる。

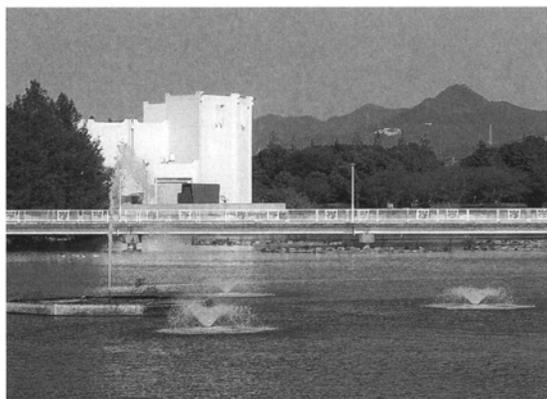
### ⑤ 鳥

大池には、10月の中頃には、マガモ、カルガモ、コガモなどのカモ類などの冬鳥が渡って来て、4月の始めころには北の地方へ行ってしまふ。

カモ類の鳥は、9月頃には雄も雌も同じような地味な褐色をしているが、10月から11月に雄の羽毛が特徴のある派手な色の羽毛に生えかわる。

### (3) 大池の自然

大池公園も校区のシンボルであり、市民の憩いの場でもある。中央には橋が架かり、池の西側には噴水が揚がる。水を綺麗にするために、浄化施設を作ったり、人工のアシ岸を作った。



大池と文化会館

3月下旬から大池の周りには、桜が咲き始める。5月には、ツツジやフジの花が見事に咲き誇っている。柳の新緑も目に染みる。

6月には、黄色いショウブやアジサイの花がきれいに咲き始める。



岸に咲くショウブ

夏には木々の葉が茂り、アブラゼミやクマゼミなどがうるさいほどに鳴いている。多くの人々が木陰を求めて訪れる。噴水も上がり涼しさを増す。

11月を過ぎる頃から、木々が色づき始め、木漏れ日がちらちらと遊歩道にゆれるようになる。池には冬の渡り鳥が飛来し、にぎやかになってくる。マガモやカルガモなどの渡り鳥がやってくる。カモの仲間やカイツブリが多く見られるが、最近ではユリカモメの姿がよく見られるようになってきた。



さくらと水鳥



人工のアシ岸

## 第2章 歴史と生活

### 1 瓦町村の開村

仁連木村の中央には、東海道が通っていた。新町橋から殿田橋を結ぶ現在の国道1号がそうである。瓦町村開発のいきさつについては、瓦町村の庄屋・佐藤弥七が記録した「河原町開発覚」という文書がある。

仁連木村の佐藤弥八郎が寛文2年(1662)に新村の分立を願い出たが、許可にならなかった。しかし、翌寛文3年(1663)、吉田(豊橋)城主小笠原忠知が死去し、同4年(64)仁連木村に菩提寺・臨濟寺を建てることについて、新村を立てることが認められた。臨濟寺は、承応2年(1653)、小笠原忠知が豊後杵築(大分県杵築市)から吉田に移封した時、菩提寺の宗玄寺を飽海に移転し、寛文4年(1664)、宗玄寺を仁連木村に移して、寺号を臨濟寺と改めたものである。田尻村(豊橋市岩田町)は寛永4年(1627)の開村であるが、それ以後の新村は「新田」という言葉を使っている。瓦町村の新立は、異例である。

瓦町村は、仁連木村の中央を通る東海道の両側、西は十王堂(現在の願成寺、東新町との境)の坂上から、東は円六橋(三ノ輪との境)までの往還長433間(787m)の所に、20軒の百姓が移住した。寛文5年(1665)までは仁連木村の庄屋が支配したが、検地が行なわれ、鎮守が勧請され、庄屋も任命された。新発田畑29町2反9歩、村高は269石3斗2合3勺である。

瓦町村の鎮守は、瓦町村が発足した翌年の寛文5年(1665)、仁連木村の鎮守(東田神

明社)を勧請した。庄屋は、佐藤弥七が任命された。その後の調査では、本百姓85軒、水呑26軒、庄屋・組頭を入れて、家数113、人数547となった。明治元年(1868)調「旧高旧領取調帳」では、瓦町村 豊橋藩領分 304石余となっている。

明治11年(1878)の郡区町村編成に際しての町村分合では、仁連木村と瓦町村は合併して、東田村となった。明治15年(1882)の「明治十五年愛知県郡町村字名調」(復刻「愛知県地名集覧」)では、東田村38字中、瓦町村は、臨濟寺前・道下・七反田・八反田・宮下・道中・宮脇・三本川・下ノ中・向郷・伝馬・橋向・通裏・通・南裏の15字である。

明治17年(1884)8月11日、東田村は東田村と瓦町村に分村した。明治22年(1889)10月1日、市制・町村制施行により、豊岡村大字瓦町となった。明治39年(1906)7月16日、豊岡村・花田村は豊橋町に合併し、豊橋町大字瓦町となり、同39年(06)8月1日、豊橋市制が施行され、豊橋市大字瓦町となった。なお、大正15年(1926)2月5日、豊橋市の41大字は41町に改称したので、豊橋市瓦町となった。



## 2 仁連木村分地

仁連木村分地は、仁連木村の中央に瓦町村が立村したので、東海道以南の草刈場は、本村との関係が稀薄になって、分地になったものと考えられる。

元禄3年(1690)に、遠近道印作・菱川師宣絵の「東海道分間延絵図」があるが、この地図での仁連木村分地は確認していない。寛政12年(1800)、幕府の命令で道中奉行の事業として文化3年(1806)に完成した「五街道分間延絵図」(復刻版)には、仁連木村分地が記載されている。また、天保14年(1843)の「東海道宿村大概帳」には、仁連木村 高888石余、瓦町村 高304石余、仁連木村分地高1001石余とある。しかし、明治元(1868)年調「旧高旧領取調帳」では、仁連木村 豊橋藩領分1890石余、神明社領3石、全久院領36石、悟真寺領16石余、瓦町村 豊橋藩領分304石余となっている。

明治11年(1878)の郡区町村編成に際しての町村分合では、餌指町・旭町・東新町・西新町・談合宮町・中瀬古町・中柴町・新銭町・飽海村・仁連木村分地が合併して豊橋村となった。明治15年(1882)の「明治十五年愛知県郡町村字名調」(復刻「愛知県地名集覧」)では、豊橋村37字中、仁連木村分地は、松下・一本松・三ツ塚・塚南・庚申下・南下畑・台・北中畑・中畑・南中畑・七面・川北・池下・伝馬・水車・三ノ輪・東猿・西猿・池端・瓦裏・瓦南・土橋・下畑の23字である。

明治22(1889)年10月1日、市制・町村制が施行され、同28(95)年2月25日、豊橋町・豊橋村が合併し、同28(95)年11月25日、旧豊橋村は、餌指町を旭町に合併し、[豊橋村]新銭町を新川、仁連木村分地23字を向山として、飽海・旭町・東新町・西新町・談

合・中世古・新川・中柴・向山の9大字となった。明治39(1906)年7月16日、豊橋町・豊岡村・花田村が合併し、同39(06)年8月1日、豊橋市制が施行され、豊橋市大字向山となった。大正15年(1926)2月5日、豊橋市の41大字を41町としたので、豊橋市向山町となった。

## 3 工兵隊

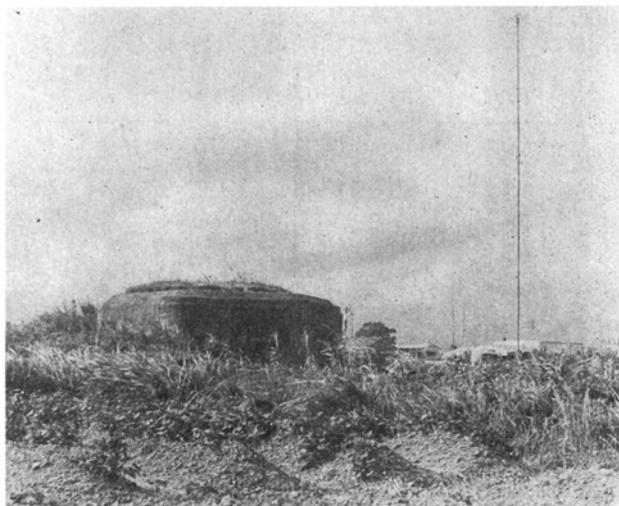
明治政府は、日露戦争(1904~05)の後、富国強兵方針のもとに16個師団に増設され、明治40年(1907)4月に第15師団が豊橋市に設置された。場所は、当時水利の悪い不毛の土地天伯原、高師原、向山台地であった。この三つの台地は、中国の原野に似ていて軍隊の演習地としては最適地であった。本部は、高師村(豊橋市高師町)に設営されたが、工兵第15大隊のみ向山に設置された。

大正14年(1925)4月第15師団の解団式が行われ、工兵第15大隊は廃止されたが、名古屋から第3師団の工兵第3大隊が移駐して来た。昭和11年(1936)工兵第3聯隊となり、終戦を中国の九江で迎えた。

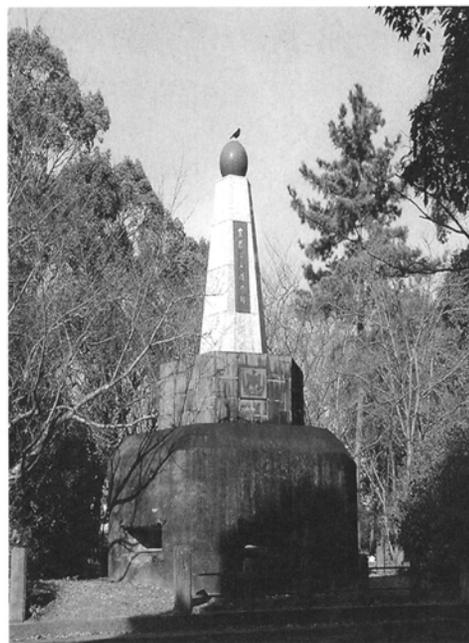
工兵作業場は、元CBC放送局、緑地公園、市営墓地で、時には豊川遊水池沖野地区で行われた。今でも緑地公園には、トーチカが残っている。

昭和2年(1927)の陸軍大演習に際して昭和天皇が展望した所を公園(向山台緑地)とし、同4年(29)3月「聖跡」碑を建てた。現在の中部電力株式会社吉田寮前である。工兵作業場跡は、昭和25年(1950)以降向山緑地公園となり、同40年(65)9月「平和の塔」が、同42年(67)5月「豊橋工兵隊の跡」が建てられた。

なお、緑地公園の西南端に建設省国土地理院の三角点(標高22.6m)がある。



工兵作業場のトーチカ



現在のトーチカ

工兵隊第三聯隊歌

「鳶の誇り」

一、流れも清き豊川や

一望涯なき高師原

古き名に負う吉田こそ

我が誇りなる豊橋の

土地高層の向山

みるもゆかしき鳶の色

いざやたたえん我が兵科

二、水滔々の豊川や

濁流渦巻く天龍に

鍛え鍛えし我が腕

櫓桿を取れば忽ちに

龍神ために僻易す

聞かずや面舵取舵の

叱咤の声も勇ましく

三、草木も靡く炎天下

焼けつく川原を踏みしめて

玉なす汗ものかわと

号令下一斉に

百難冒して架橋する

知らずや健児の意気高く

天龍河畔の絶叫を

四、本宮嵐肌を刺す

骨も凍らん厳寒に

十字を高く振りかざし

円匙を取れば忽ちに

熱血溢れて肉おどる

黙して我に力有り

見よ落城の成果をば

五、百雷一時に落ちること

耳を劈く爆音に

水煙萬丈天を衝く

咬龍貪り雲を呼ぶ

宇宙の萬物ことごとく

戦き震えて声もなし

あゝ壮烈な爆破かな

六、架橋築城また爆破

朝な夕なに鍛えたる

隆々靡く鉄の腕

腕を試すは何時なるぞ

風雲東にきざす時

我等の責務いや重し

いざや励まん諸共に

いざや励まん諸共に

工兵第三聯隊歌（「工兵隊第三八聯隊史」より）

## 4 向山校区の製糸と養鶏

### (1) 製糸

豊橋地方の製糸の歴史は古く、校区内では明治9年(1876)に瓦町で製糸が行われた記録がある。明治29年(1896)に初代豊橋町長の三浦碧水が社長となり豊橋製糸株式会社が、大池池畔(後の三州石川組製糸所)の地で操業した。取締役には、豊橋商業会議所の会頭の遠藤安太郎等も加わった。

この製糸所の構内には、当時綺麗だった大池から取水して製糸用に使った煉瓦造りの貯水槽が、昭和の初期まで残っていた。

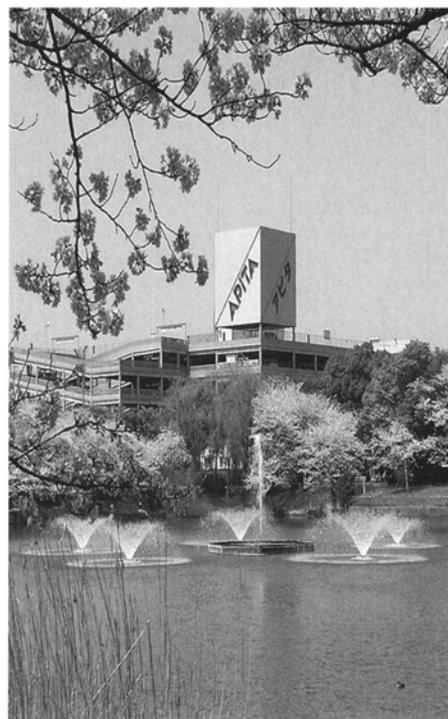
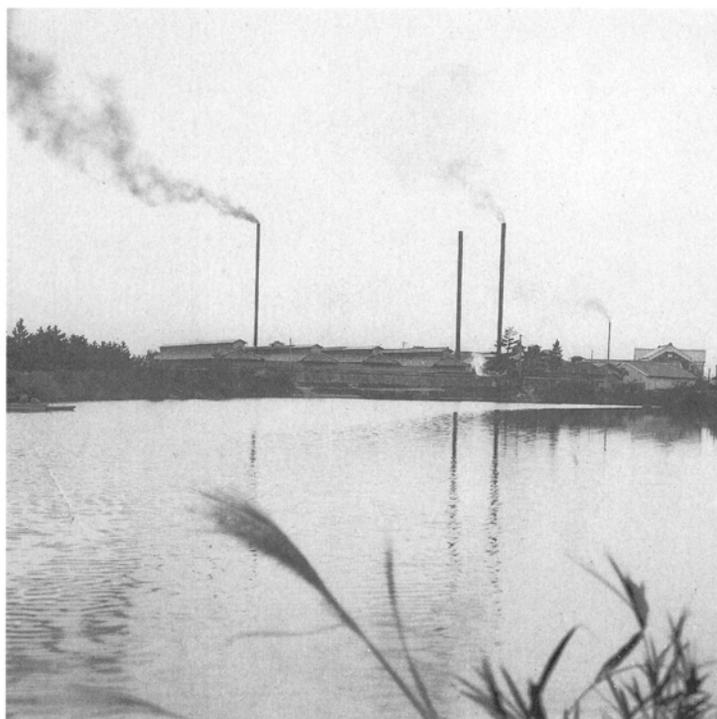
明治39年(1906)に長畑安吉、同40年(07)に石川良三郎、大正6年(1917)に朝倉福次郎、戸田はつ、同7年(18)に平川弥十・近藤末吉・藤田千松、同8年(19)に宮地徳次郎、石川蹟次郎、同11年(22)に岡田半次郎・中村新助が、昭和の時代になって鈴木良雄が製糸を操業した。

埼玉県出身の石川蹟次郎は、その後隣地(アピタの地)を買収して昭和5年(1930)には三州石川組製糸所、500釜、850人の豊橋屈指の製糸工場になった。同所では、第二次世界大戦中乾燥機を利用して乾燥野菜を製造して陸海軍に納入した。製糸部門は、企業合同により日本蚕糸製造株式会社向山工場として軍需用の繭短繊維を製造した。

昭和10年(1935)には、吉見製糸工場他16の工場(次ページ参照「向山地区の製糸工場」)が、同17年(42)には、三州石川組製糸所工場他3工場があった。

終戦後は、石川組製糸所に復元し生糸製造を再開したが、需要の減退により、一時ウーリーナイロン加工に転換した。その後、昭和43年(1968)に石川孝司が向山ボウリング株式会社を設立営業した。昭和50年(1975)にユニー向山を、その後アピタ向山となり現在に至る。

このように製糸工場は、まったく姿を消すことになった。



昭和初期頃の大池と3本煙突の三州石川組製糸所(現在はアピタ)

愛知県豊橋蚕業取締所が、豊橋市花田町に設置されたが、昭和12年（1937）瓦町南裏に新築移転した。昭和29年（1954）豊橋蚕業指導所と改称したが、同38年（63）廃止された。昭和23年（1948）豊橋市中八町の元中部百部隊内に豊橋地方児童相談所が開設され、同26年（51）、東松山町に新築移転し翌27年（52）豊橋児童相談所と改称した。昭和43年（1968）豊橋市瓦町通1丁目に新築移転した。その後東三河事務所に統合された。

製糸工場名	製糸業者(代表者)	所在場所
吉見製糸工場	吉見鐵三郎	向山町下畑1
鈴木製糸工場	鈴木直道	向山町三ノ輪1
日吉館製糸工場	藤田権次郎	向山町三ノ輪16
佐藤製糸工場	佐藤金一郎	向山町伝馬116～7
三州石川組製糸所	石川躰次郎	向山町中畑1
青木製糸工場	青木郡平	向山大池町60
平尾製糸工場	平尾彌蔵	向山大池町84の1
黒柳製糸工場	黒柳宗七	向山大池町101の1
星野製糸工場	星野竹次郎	向山大池町50
朝倉製糸工場	朝倉徳十	向山大池町84
鈴木製糸工場	鈴木米吉	向山西町3
岡田製糸工場	岡田半治郎	瓦町南裏63の11
廣田製糸工場	廣田増吉	瓦町通113
近藤製糸工場	近藤末吉	瓦町通115
池田製糸工場	池田常平	前田町39
今泉製糸工場	今泉幸太郎	舟原町79
高須製糸工場	高須松太郎	前田町31

向山地区の製糸工場（昭和10年現在）

## (2) 養鶏

豊橋市の養鶏は、明治26年（1893）、大崎の小柳津友治が500羽規模での飼育を開始したことに始まる。その後瓦町へ進出し採卵養鶏に撤して、明治30年（1897）には1万規模に発展した。小柳津友治は、アメリカから白色レグホンを輸入し、年平均産卵量は平均220個に達し、鶏舎方式の飼育法が普及した。養鶏飼料として、満州からポーミー（とうもろこし）を輸入し、北海道・樺太・朝鮮方面から胴鯨を輸入した。製糸から出るドッチ（蛹）、牟呂の貝殻なども養鶏に役立った。

校区内では、大正11年以降昭和初期にかけて盛んになったと言われている。昭和8年（1933）新川校区に362戸の養鶏家があった記録がある。（当時向山町は、新川校区であった）そのほとんどが向山にあり、1戸平均200羽位と言われ、500羽程度から専業家、1,000～3,000羽の養鶏家が数戸あった。

当時の鶏舎は、前面が金網で屋根はなく日光消毒と運動をさせる場であった。後部は、板囲いトタン屋根で寝ぐらと産卵場で、その後樹木を植えて熱射を防ぐ形の小屋での平飼が多かった。

その後、小柳津人工孵化場として、三男の小柳津三郎が、家禽場として事業を発展させた。瓦町に孵化器屋があり、ひよこはそこから買っていた。また、ドッチ屋もあって、繭から糸を取ったあとの蛹（どっち）は、鶏の餌になった。昭和18年（1943）ぐらいから飼料の入手が困難となり大多数が廃業した。昭和20年（1945）6月20日の豊橋空襲で焼失したため、小柳津人工孵化場も廃業となった。第2次大戦後、大規模化と住宅地化が進んだため向山地区での養鶏はできなくなった。二川方面に転出する人が続出し、製糸同様に向山に養鶏家はいなくなった。

飼料：ポーミー（とうもろこし）、米ヌカ  
コウリヤン、豆粕、菜、貝殻、胴鯨、  
魚のあら、ドッチ（蛹）等

## 5 耕地整理と区画整理

### (1) 向山西部地区

豊橋の市街地の南東部の前田地区は、牟呂用水を越えると一面の水田地帯だった。その東の向山台地は、明治40年（1907）に工兵隊が誘致されたが、大正初年までは、下畑・南下畑と伝馬・水車に集落があっただけで、伝

染病院（明治28年～昭和8年）や火葬場（明治39年～昭和8年）があるような辺鄙な土地であった。御大典記念前田耕地整理事業（大正5年～昭和11年）が行なわれた。

昭和7年（1932）10月11日、向山町のうち大池以西に、向山大池町・向山西町・向山台町が設定された。翌昭和8年（1933）10月10日、牟呂用水と向山町の水田地帯に、舟原町・前田町・小畷町・西ノ又町（吉田町）・前田南町が設定された。

耕地整理の結果、用排水路は完備され、区画は整理された。大正14年（1925）東田町舟原（舟原町）に豊橋高等小学校、昭和6年（1931）中世古町西ノ又（前田中町）に豊橋で最初の鉄筋コンクリート3階建ての新川尋常小学校が建設され、準工業・商業・住宅地区となり、第2次世界大戦後は耕地はほとんど宅地化された。町内会は、昭和4年（1929）に向山町から東向山町が分離した。昭和16年（1941）の町内会制度では、向山町は向山第1・第2町内会となった。

住宅地化したため、豊橋都市計画前地向山土地区画整理事業（昭和32～48年）が行われた。向山工区は、昭和45年（1970）5月16日、向山西町・向山台町・向山大池町の主要道路に歩道がつき、下水道が完備され、近隣公園が各町につくられ、番地がブロック制になった。向山西町に向山小学校、向山大池町に豊橋市民文化会館が建設された。

なお、前田工区は、昭和48年（1973）6月12日、舟原町・前田町1～2丁目、前田南地区は、前田南土地区画整理事業（昭和48年～平成16年）に受け継がれて、平成12年（2000）1月8日、小畷町・前田中町・前田南町1～2丁目設定された。

これらの町の設定は、区画が道路・水路などによったため、向山町の地域の幾分かが舟原町・前田町・小畷町に編入されたが、町内

会は従来の区域のままであった。そのため、昭和32年（1957）、向山小学校の新設に際して、通学区域は町内会によることになった。

## (2) 瓦町地区

瓦町は、東部土地区画整理組合の事業（昭和4～18年）が東海道（国道1号）に沿った字通・字南裏などを除いた地域を市街化する目的で行なわれた。昭和15年（1940）8月15日、瓦町（字なし）・仲ノ町・伝馬町・池見町・大井町・住吉町・老松町が設定された。

昭和16年（1941）の町内会制度では、瓦町は、瓦町（字通・字南裏）・東瓦町（瓦町・仲ノ町・伝馬町・大井町）・北瓦町（住吉町・池見町）・西瓦町（老松町）となった。

豊橋市都市計画は、大正14年（1925）国道1号を下地から豊橋を經由して、船町（大橋通）・豊橋駅前（駅前大通）・向山・瓦町（円六橋）とした。昭和21年（1946）豊橋都市計画土地区画整理事業を開始し、同34年（59）吉田大橋が架橋され、同37年（62）小坂井まで国道1号バイパスが完成した。昭和25年（1950）、西八町～東八町間が戦災復興土地区画整理によって拡幅されたので、国道1号となり、国道1号沿線土地区画整理事業（昭和30～38年）によって、新町橋～円六橋間の旧東海道（道幅3間）を幅員27mに拡張することになった。瓦町の国道1号沿いは、いくらか戦災を受けていたが、家数も多く、家並みが建て込んでいた。住民は、買収方式を拒否し、区画整理によることを望んだ。昭和37年（1962）8月27日、国道1号瓦町交差点信号機点灯式が行なわれた。昭和39年（1964）4月7日瓦町通1～2丁目・南瓦町が設定された。

## (3) 向山東部地区

向山の池の東側で、三ノ輪土地区画整理

事業（昭和13～34年）が三ノ輪町白山地区を対象として開始された。昭和13年（1938）、豊橋市立高等女学校が向山町西猿地区に移転してきたので、三ノ輪町若松・向山町西猿・東猿などを区域に編入した。昭和34年（1959）10月20日、三ノ輪町1～5丁目、向山東町が設定された。向山地区のうち、旧工兵作業場・旧動物園跡・大池周辺などは、向山緑地となり、向山町南東部の伝馬地区を除いては区画整理が行なわれ、住宅地区となった。

## 6 昭和初期の瓦町と向山

瓦町の東海道に面した家々は、間口3～4間、奥行10～20間で、商店街を形成していた。八百屋・魚屋・自転車屋・電気器具店・薬局・うどん屋・銭湯・小間物屋・衣料品店・米屋・肉屋・菓子屋・靴屋など、日常生活に必要なものはたいていそろっていた。お寺やお宮もあり、瓦町郵便局が昭和16年（1941）に開局した。瓦町を通る東海道（国道1号）は、道幅は3間（5.4m）であったが、アスファルト舗装であった。豊橋駅前から東田遊郭へ行く循環自動車（10銭バス）が昭和4年（1929）から瓦町の通りを通っていた。昭和8年（1933）から省営バス（JR東海バス）が瓦町の南裏を通っていた。

向山は、中世古方面からの出作が多く、畑には農小屋があった。稲刈の時期になるとはぎ（稲架）がかけられていた。何しろ、大正2年（1913）末の統計では、住民は27戸（131人）であった。それでも、昭和元年（1926）末の統計では279戸（1774人）に増えている。養鶏業と製糸工場の他は、いわゆる4軒長屋が目についた。道路は全部砂利道で、工兵隊前の道は少し道幅が広がったが、その他は2間（3.6m）以下の

農道のような道ばかりだった。

終戦までの向山には、商店は数軒しかなかった。現在の交番前に酒屋が1軒あり、工兵隊の坂を下がったあたりに、工兵隊の除隊記念品を売る店が2軒ほどあった。当時の向山の最西端・800間通りに面して菓子屋と郵便ポストがあったことが記憶に残る。その他では、こども相手の一文菓子屋が2～3軒あっただけだった。大池には、鮎を釣る人の和船が何隻か浮いていた。ボート屋が2軒と楽水という料理旅館が池端にあった。向山の人は、八百屋・魚屋・味噌醤油などの買い物は、瓦町の通りか、800間通りの現在の前田町2丁目交差点のあたりまで行かなければならなかった。

終戦までの生活では、自転車やラジオのある家は、相当な暮らしの家であった。普通の家には、家具もほとんどなく、座敷や台所にも、何も置いてなかった。電燈はたいていの家は定額で、夕方になると、「電気が点いたで、帰れ」といわれたことが何べんかある。

終戦後の向山は、製糸工場の建物と鶏小屋が家を焼かれた人たちの住居となり、徐々に畑に住宅が建てられていった。向山地区には下水道とガスは整備されていなかったが、土地区画整理と同時に都市下水やガスも通じ、家が建ち並ぶようになった。



大正8年創業 小畑自転車商会（瓦町通91番地）

## 7 豊橋高等女学校

明治35年（1902）4月、豊橋町立女学校を渥美郡豊橋町西八町に開校する。修業期間4年。高等女学校としては、愛知県内2番目の設置だった。初代校長として喜多村鐘太郎が就任した。明治39年（1906）8月1日豊橋町に市制が施行されたため、同40年（07）豊橋市立高等女学校と改称された。



西八町の校舎

開校から10年後の明治44年（1911）豊橋市旭町に校舎を新築移転した。大正4年（1915）敷地内に寄宿舎が竣工、同15年（1926）補習科1学級（定員50名）を募集する。

昭和13年（1938）豊橋市向山町西猿に校舎を新築移転した。敷地面積28ha、本館は鉄筋コンクリート3階建て。昭和19年（1944）学徒勤労動員令によって4月から高学年（3、4年）、10月から低学年（1、2年）が県内各地の軍需工場へ駆り出された（通年動員）。昭和19年（1944）12月7日、東南海地震のため中島飛行機半田製作所が倒壊し勤労動員中の生徒26名が殉難死。昭和20年（1945）8月7日豊川海軍工廠が爆撃され、勤労動員中の職員1名、生徒34名が殉難死した。

昭和23年（1948）4月、6・3・3制移行に伴い豊橋市立高等学校・同併設中学校（2年間存続）と改称した。昭和23年（1948）10月、愛知県立青陵高等学校と統合して、愛知県立

豊橋東高等学校となり、豊橋市向山町西猿の豊橋市立高等学校の校舎を使用することになった。



校舎移転（昭和13年）

## 8 動物園と豊橋空襲

現在豊橋市の動物園（豊橋総合動植物公園）は「のんほいパーク」の愛称で呼ばれ、大岩町の広大な敷地で170種類の動物たちを見ることができるが、昭和9年（1934）から同20年（45）までの11年間、動物園は向山町池下にあった。

豊橋市の動物園は、明治32年（1899）安藤政次郎が花田町西宿（豊橋駅前）に開園。明治45年（1912）に新停車場通（広小路）開鑿のため、花田町守下（大橋通と国道23号の交差点）へ移転。昭和6年（1931）安藤政次郎没後、市営動物園となり同9年（34）向山町池下（豊橋市交通児童館）へ移転したが、同20年（45）戦局激化のため動物園は閉鎖。ふたたびの開園は、昭和29年（1954）豊橋産業文化大博覧会が吉田城址で開催された際に、動物園が作られるのを待たなければならなかった。昭和45年（1970）郊外の豊橋市東高田町（大岩町）に移転した。

向山にあった動物園は、陽当たりの良い広々とした園で、中央の禽舎にはオオワシ、ペリカン、七面鳥が飼育され、東側の高台に

は、トラ・ライオンの猛獣舎があった。寢室から出てくるライオンを長時間待っては楽しんだ。ライオンのオスがメスの部屋に飛び込もうと体当たりし、金網が破れかかったこともあったが、大事には至らなかった。

戦時体制は昭和12年（1937）7月の盧溝橋事件に始まり、同20年（45）の空襲と敗戦に至ってその極に達する。昭和20年（1945）2月15日、向山町伝馬が被弾し、死者9名の被害が出た。3月24日、向山町池下が被弾したが、被害はなかった。6月19日深夜から20日未明にかけ、豊橋は焼夷弾攻撃のため灰燼<sup>かいじん</sup>に帰した（128万坪が焼失）。豊橋の全戸数の70%（1万6,886戸）、人口の50%（7万1,502人）が被災、死者624人、重軽傷者344人を出した。

向山の界隈は、牟呂用水のお陰で舟原町の大部分は類焼を免れたが、東新町、小畷町、吉田町、前田町、向山町下畑、南下畑はほぼ被災した。向山や瓦町は、坂で火が止まったが、焼夷弾を消し止めそこなったところは焼けた。向山西町や瓦町の通りも一部被災し、老松町周辺は点々と被災した。向山第一町内会副会長であった吉見鉄三郎氏は、自宅の防空壕が直撃されて爆死した。火たたき・バケツリレーや、素掘りに薄い蓋をかけた程度の防空壕では、アメリカのB29の爆撃には対抗できなかったということである。

戦時下の動物園は、家畜や家禽、伝書鳩や功労馬などを軍用動物として紹介する教育の場として利用、軍事礼賛の一端を担った。しかし暗い世相にあっても市民にとって動物園は憩いの場として親しまれた。昭和16年（1941）頃になると、空襲によって動物が逃げ出すのを防ぐための対策や疎開計画が行われた。また、餌を確保するために園内でイモの栽培などを行い、自給体制を講じたが、多くの動物は飢えと寒さで次々と死んでいった。さらに空襲が頻繁になる頃には、猛獣は全て

猟友会に依頼し射殺。他の動物も餌不足で死んだり、小動物や鳥は野生に放した。こうして昭和初期に建設された動物園は姿を消した。そして戦後、人々はさらに困窮した生活に追われ動物園はその存在すら忘れられた。

## 9 周辺地区の推移と向山小学校の開校

向山に隣接する新川校区の小学校は、明治34年（1901）に創設された豊橋町南部尋常小学校であった。豊橋市制施行により明治40年（1907）3月に豊橋市新川尋常小学校と名称を改めた。南部尋常小学校創設の時の校区は、13大字・1,531戸で、13大字の中には向山町も含まれていた。大正5年（1916）に、東田町字舟原・字小畷の児童が新川校区に編入されることになった。昭和10年代には、1学年5学級（350人）という大規模校になった。

第2次世界大戦後、向山地区の人口増によって小学校新設が問題となった。向山は面積が広く、高等学校はあったが、地域の核となる小学校などがいないことが問題であった。第2次世界大戦が終わったころには、郵便局や派出所、銭湯などもなかった。

瓦町は、明治14年（1881）に三ノ輪学校（佐藤・瓦町入る）、同20年（87）に岩田学校（岩田村・東田村・瓦町村・三ノ輪村・岩崎村・飯村）、同25年（1892）に東田に分教場が開かれることになり、同じ年に豊岡第二尋常小学校区となった。明治40年（1907）に豊橋市東田尋常小学校となった。昭和20年（1945）6月20日、豊橋市への米軍の空襲により、東田小学校は全焼した。そのために昭和21年（1946）1月、向山の元工兵隊が使用していた兵舎などを仮校舎としたが、同23年（48）4月に旭町にあった元市立女子商業学校の校舎に移転した。昭和27年（1952）の4月東田小学校は、戦災で焼失していた元市立商業学校

の敷地に新築移転したが、瓦町地区・東田町の西部地区と八町校区の東新町、旭町（牟呂用水以東）で旭小学校が新設された。

このような周辺地区の推移のもと、昭和32年（1957）4月、新川小学校分教場が向山西町に新築された。南瓦町に隣接する向山西町に学校の敷地を選び、区画整理によって6軒の居宅が移転されることになった。新川校区のうち第一向山町1・2区、向山町、東向山町1・2・3区（この後向山東町ができる）、旭校区のうち、瓦町1・2・3・4・5・6区、東瓦町1・2区に在籍する1・2年生児童398人を収容して発足した。第二向山町は、



国道1号瓦町交差点付近

新川校区にとどまり、池見町・住吉町・老松町・東新町は、旭校区にとどまった。昭和33年（1958）には1年生から4年生までで790人となった。

昭和34年（1959）の4月に正式に向山小学校として開校し、児童数は、1,173人であった。昭和40年（1965）年3月1日、総代会、PTAなどが体育館建設委員会を結成し、蒲郡信用金庫から資金を調達して建設費2,172万円の半額を地元立替とした。

昭和41年（1966）5月30日に体育館が竣工し、同42年（67）7月19日にプールが建設された。

## 10 国道1号、豊橋環状線、バス

### (1) 国道1号

東海道は、昭和33年（1958）6月1日豊橋市岩屋町から三ノ輪までの新道の供用が開始された。第2次世界大戦後まで瓦町以西の市街地の幅員は3間（5.4m）だったが、昭和37年（1962）8月27日国道1号瓦町交差点信号機点灯式が行われて国道1号の拡幅がされた。国道1号沿線の区画整理が完成した。（瓦町通1・2丁目）

なお、豊橋駅前から大池交差点までの駅前大通が昭和45年（1970）までに完成していたが大池交差点から殿田橋までの大池線の拡幅が平成6年（1994）に完成した。この道路は、上伝馬・札木・瓦町を通る旧東海道が狭かったため、終戦後アメリカ占領軍のジープが通ったルート1の殿田橋までの大池通り（前田橋から商業高校の坂下までは一筋南）の経路と一致する。



瓦町歩道橋から見た国道1号

### (2) 豊橋環状線

豊橋環状線は、昭和8年（1933）に決定された都市計画街路の環状1号線である。その後石巻赤根線と名称が変更されたが、昭和51年（1976）豊橋環状線（愛知県道502号）となった。昭和20年（1945）の終戦までに牛川から東田坂上をこえた老松町までは完成していた。瓦町の東海道をこえる工事は難航した

が、昭和39年（1964）の国道1号沿線区画整理によって貫通した。

瓦町交差点から向山大池の南西角までは昭和45年（1970）の前田向山区画整理によってできた。



豊橋環状線（向山大池町）

#### 《大池通り》

豊橋市内には、主要24路線に道路愛称がつけられ通称名定着路線13と、平成2年市民公募による11路線がある。

向山校区では、前田橋交差点（前田町1丁目）から向山大池を経て国道1号殿田橋（三ノ輪町）までの通り（2.5km）を「大池通り」と称している。



### (3) バス

昭和4年（1929）豊橋自動車から分離された豊橋循環自動車が設立された。昭和10年（1935）に豊橋電気軌道が買収したが豊橋駅前から停車場通（常磐通）～上传馬～曲尺手～不動院前～東田のバスを経営していた。上

伝馬から瓦町までは、旧東海道で当時の豊橋の繁華街を通り、瓦町から東田遊廓への瓦町線（明治45年開鑿、瓦町寄付による）を通った。運賃は、途中までは6銭、終点までは10銭だったので「10銭バス」と俗称され、どこでも手を挙げて合図をすれば止まってくれた。

昭和18年（1943）東三地方の自動車会社は、豊橋乗合自動車に統合された。昭和24（1949）豊橋交通となり、同29年（54）豊橋鉄道となった。第2次世界大戦後、バスの運転が再開されたとき、豊橋駅前～瓦町～豊橋東高校前～豊橋商業高校前～豊橋駅前という市内循環バスが運転されることになった。1時間に2本、運賃は10円だった。それでも瓦町廻りと向山廻りがあるので、運転本数が多いように感じられた。昭和25年（1950）12月15日から西口線の運転が始まった。

豊橋東高校から豊橋駅前へ出るのに、瓦町札木経由の方が時間がかかるので、向山廻りの利用が多かった。平成3年（1991）11月20日、市内循環は、運転を中止した。豊橋東高校前は岩田団地線、豊橋商業高校前は岩田団地線（大池）、西口線、飯村・岩崎線、金田住宅線が運転されることになった。岩田大池線（札木）は、札木～瓦町を経由する。（富岡線、金沢線、西川線、豊川・和田線、嵩山線は、バスターミナル～豊橋駅前～札木～旭橋を経由する。）

昭和5年（1930）鉄道省は、岡崎・多治見、瀬戸・高蔵寺間に自動車による運輸営業を開始し、省営バスといった。昭和8年（1933）3月27日、豊橋・二川間（浜名線）の自動車による運輸営業を開始した。停車場として、豊橋公設市場前、豊橋瓦町、山中橋、飯村、岩屋観音、二川（6km）が告示された。昭和8年（1933）6月10日、二川・二川東町、同12年（37）7月20日、二川東町・新居町間の営業を開始した。

昭和24年(1949)6月1日、国鉄自動車、同62年(87)4月1日、東海旅客鉄道(JRバス)、同63年(88)4月1日、ジェイアール東海バス会社となった。

省営バスは、最初循環バスとほぼ同じ経路を計画したが、広小路～銀座通り～前田橋～小畷～800間通り～新町橋～瓦町南裏を通り、現在の瓦町交差点の東で東海道へ出る経路を通ることになった。広小路は明治45年(1912)の開鑿であるが、神明町から前田橋への旧銀座通りは大正初年の開通である。前田地区の耕地整理も、大正5年(1916)に着工しているので、前田橋から小畷までの広い通り・800間通りは、大正末には完成していたと思われる。新町橋からの瓦町南裏は、大正6年(1917)の施工である。告示された駐車場のほかに、小畷、舟原、瓦町南裏(向山西町、児童相談所前と改称)、豊橋高等女学校前(豊橋東高校前と改称)などの停留所も設置された。

平成14年(2002)9月30日、浜名線が運行廃止、同14年(02)10月1日より豊橋鉄道二川線が運行開始された。



国道1号沿いにあった「みその湯」

## 11 向山校区のスタート

### (1) 町内と校区の変遷

向山校区は、豊橋駅より東へ1.5km、豊橋市の中心部に位置している。校区を大きく分

けると、向山と瓦町からなっている。瓦町は、瓦町1区～6区、東瓦町1・2区の町内があり、向山は、第一向山町1・2区、向山町、東向山町1～3区、向山東町の15町内となっている。

町名では、瓦町通1・2丁目、瓦町、南瓦町、向山町、向山大池町、向山西町、向山台町、向山東町のほかに大井町、伝馬町及び前田町2丁目、舟原町の一部が含まれている。

向山は、江戸時代中期以降は仁連木村分地であったが、明治維新以降は豊橋村に所属した。明治28年(1895)2月25日豊橋町と豊橋村が合併し、同年11月25日大字向山が設定された。明治39年(1906)8月1日豊橋に市制が施行されて、大正15年(1926)2月5日豊橋市向山町となった。昭和7年(1932)の前田耕地整理、同34年(59)の三ノ輪区画整理、同45年(70)の前田向山区画整理によって新しい町名が設定された。(第2章2 仁連木村分地参照)

町内会は、昭和4年(1929)向山町から東向山町が分離、同16年(1941)第一・第二向山町内会が編成された。昭和24年(1949)第一向山町は、第一向山1～4区に、同29年(54)第一向山町1・2区、向山町となった。東向山町は、昭和23年(1948)東向山町1～3区となり、同40年(65)向山東町が組織された。

昭和16年(1941)瓦町、東瓦町、北瓦町、西瓦町町内会が編成された。昭和27年(1952)瓦町は、瓦町1～5区、同31年(56)瓦町1～6区となった。東瓦町は、昭和30年(1955)東瓦町1・2区となった。北瓦町は、昭和28年(1953)北瓦町1～3区、同36年(61)池見町、住吉町1～2区となった。西瓦町は、昭和37年(1962)老松町1区となる。

上記と同一地域の昭和50年(1975)国勢調査による町総代別戸数・人口を記す。

旭校区

池見町	194世帯	631人
住吉町1区	246	690
〃 2区	130	419
老松町1区	171	602

向山校区

瓦町1区	108世帯	1,390人
〃 2区	51	197
〃 3区	80	307
〃 4区	79	304
〃 5区	130	431
〃 6区	71	236
東瓦町1区	305	723
〃 2区	382	1,367
第一向山町1区	151	590
〃 2区	215	734
向山町	161	556
東向山町1区	258	842
〃 2区	274	998
〃 3区	367	1,283
向山東町	348	1,155

新川校区

第二向山町	326世帯	1,013人
-------	-------	--------

昭和32年（1957）4月、向山西町に新川小学校分教場として向山小学校が新築された。昭和34年（1959）4月、児童数1,173人（22学級）で独立校として開校し、向山小学校が誕生した。

① 戦前の瓦町と向山町の比較

	瓦町		向山町	
	戸数	人口	戸数	人口
大正2年末	215	991	27	131
大正5年末	243	1,038	88	654
昭和元年末	410	2,065	279	1,774
昭和6年末	656	3,082	523	3,447

当時の瓦町は、現在の旭校区の一部を含んでいたし、向山町は現在の向山校区の一部を含んでいた。

② 世帯数、人口の変遷

向山校区の世帯数・人口の昭和30年（1955）から平成12年（2000）までの変遷を右記にまとめた。

年度	世帯数	総数	男	女
昭和30	1,224	5,513	2,597	2,916
35	2,010	8,460	4,093	4,367
40	2,544	10,099	4,869	5,230
45	2,861	10,581	5,143	5,438
50	2,880	10,097	4,898	5,199
55	2,861	9,450	4,555	4,895
60	2,982	9,376	4,504	4,872
平成2	3,219	9,707	4,677	5,030
7	2,944	8,276	4,027	4,249
12	2,948	7,894	3,795	4,099

各年10月1日現在（国勢調査結果による）

(2) 校区の活動

向山校区では、常日ごろから住民同士のつながりを深め、連帯感を持つような行事を開催している。

① 向山校区体育祭

向山校区体育祭は、昭和53年（1978）から開催され、平成17年度（2005）で27回を迎えた。校区総代会が主催し、校区体育委員会が実行委員となり校区各種団体の協力で、向山小学校運動場で毎年開催されている。



向山校区体育祭

② 三世代ふれあい事業

向山校区挙げての行事「三世代ふれあい事業」は、毎年各種団体がふれあい活動を主体としたコーナーの企画をして開催されている。

平成3年（1991）に第1回を開催し、校区最大の行事となり以後盛大に開催されるようになった。向山小学校が中心となり、児童・

P T A校区民の子どもからお年寄りまで参加している。

平成17年度（2005）は、向山緑地公園で開催され、お手玉・あやとりなどの昔の遊び、餅つき、うどんづくり、地震体験、レクリエーションゲーム、自然アートで楽しもうなど、多彩な催しが行われた。各コーナーともにぎやかな楽しい時間を過ごすなど、地域連携行事である。



3世代ふれあい事業

### ③ <sup>こみゼロ</sup>530運動実践活動

毎年行われる豊橋市の春・秋の530運動実践活動にあわせて、向山校区では向山緑地公園周辺を清掃している。総代会を中心に校区民約150人が参加してツツジの植栽の奥に隠れている空缶やレジ袋をもぐり込んで回収したり、ごみ拾い、草取りなどを行ってきれいにしている。これら活躍が認められて、530運動環境協議会から530運動実行賞のパナーを受領している。



530運動（向山大池公園）

### (3) 各種団体の活動

向山校区では、総代会のもとに各種団体が自主的に、またそれぞれが連携してコミュニティ活動をしている。

#### ① 社会教育委員会

社会教育委員会のもっとも大きな行事は、毎年市民文化会館ホールで開催する成人式である。また年2回の社会学級講座は1回目を「落語」等の娯楽・文化的な催し、2回目は教養・健康等の講演会を開催し、多数の参加を得ている。バス2台で行く校区研修旅行も校区住民の親睦を図る上でも大いに役立っている。その他、施設見学・フラワーアレンジメントの講習会などの学習活動も行っている。

#### ② 体育委員会

体育委員会は、向山校区体育祭の実行委員として主体的に活動している。

その他、男子ソフトボール大会、女子バレーボール大会、男女ソフトバレー大会を行っている。夏休みに入った10日間程行われるラジオ体操には、子どもから大人まで400名余りの参加がある。また、子ども中心に開かれるスポーツ教室では、楽しく体を動かせるような新しいスポーツなどを紹介している。

#### ③ 子ども会

子ども会は、子ども会活動を通して健全な青少年育成をモットーに活動している。年間行事として、育成者研修会などへの参加、球技大会・綱引き大会への参加、夏季校区キャンプなど企画実行している。キャンプには120名ほどの参加者がある。



3世代ふれあい事業 子ども会コーナー  
スリッパでビューン



成人式（平成18年1月8日）

#### ④ 消防団

豊橋市消防団第三方面隊向山分団の名称で17名で構成されている。消防団・水防団を兼務し、公務・地域活動をしている。地域の行事に参加すると共に、年間を通して消火活動、火災予防の広報活動などを行い地域の安全に貢献している。また、日ごろの訓練の成果を競う「方面隊操法及び放水競技大会」などにも参加している。

#### ⑤ 防犯協会

防犯協会は、向山校区内で行われるさくらまつり・つつじまつり・うめまつり等の行事及び校区行事に際し、整理安全誘導、会場パトロールを行っている。また、一年を通して校区内のパトロールをし、日々地域の住人の生活を見守っている。そのほかに年2回、不定期で自転車や車の防犯診断もしている。

#### ⑥ 更生保護女性会

更生保護女性会は、向山校区の「社会を明るくする運動」へ参加、協力をしている。また福祉施設への奉仕活動として、智光寮での掃除、乳児院での繕い物、時には赤ちゃんのお守りなども行う。市の行事への協力もし、赤い羽根・歳末助け合い運動の街頭募金活動

など行っている。

#### ⑦ 老人会

向山校区老人会は、各町老人会の6クラブによって構成されている。昭和45年（1970）に市老人クラブ連合会に加入し活動が開始された。シルバースポーツ中央大会、交通安全巡回教室への参加、校区老連旅行などを行っている。また、高齢者同士声を掛け合う「一声運動」を通し、コミュニケーションを図り、いつまでも元気で安全に暮らせるように努めている。

各町の老人クラブは次の通りである。

東瓦町2区不老会、東瓦町1区睦会、瓦町通共栄会、紅葉会、至高クラブ、敬愛クラブ



お年寄りから竹馬の乗り方を学ぶ子ども

### ⑧ 向山小学校PTA

向山小学校PTAは、児童の心身共に健康な成長と安全な生活を確保するために、親子ふれあい集会、年2回のリサイクル活動などの全体活動と学年委員会、各部における活動を行っている。各部の活動は、朝の集団登校時立ち番、PTA新聞作り、学校保健委員会への参加、PTA会員の研修活動などである。平成17年度（2005）の親子ふれ合い活動では、阪神淡路大震災に遭遇した神戸市の小学校教頭先生をお招きし、貴重な体験談を親子で聴講した。また、下校時における子どもの安全のため、警戒活動などを行っている。

### ⑨ 青少年健全育成会

向山校区青少年健全育成会は、昭和61年（1986）6月から校区指導員が設置され活動をしている。活動内容は次の通りである。

- ・小中学校、青少年育成関係者との連絡協議を図る。
- ・健全な家庭づくりのための啓発指導を行う。
- ・青少年育成に関する諸活動を行う。

これら各種団体の独自の活動と連帯活動により、校区のコミュニケーションを豊かにし、連帯感を高め互いに支えあう思いやりの心を育て、住みよい校区をつくるための一翼を担っている。

### (4) 校区市民館の活動（豊橋市向山西町）

向山校区市民館は、昭和58年（1983）4月向山小学校運動場東に地域住民のコミュニティ活動や、生涯学習活動を進める場とすると同時に、グループ活動など積極的に利用することを目的として開館した。鉄筋コンクリート2階建て、延べ360㎡。1階には、事務室・図書談話室・和室・湯沸室など、2階には、集会室・研修室・実習室などがある。

総代会・各種団体の会合や、カラオケ、大正琴、気功、コーラスなどのサークル活動に



市民館の手芸講座

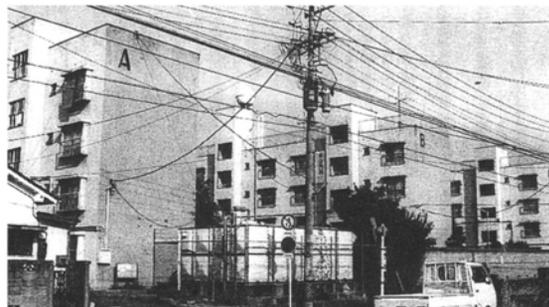
参加する多くの校区民が利用している。年々講座も多種多様となり、年間利用者数は2万5,600人と増加している。（平成16年度）

図書談話室も子どもを中心に利用され、図書貸し出し数も年々増えている。平成14年度から始まった小中高校の週5日制により、隔週土曜日を利用した、「生き生き子育て事業」において卓球、将棋、歌と遊びの講座を実施している。これらは、「土曜講座」という名称で開講され、講師は地域の方をお願いしている。

### (5) 県営瓦町住宅（豊橋市南瓦町）

愛知県営瓦町住宅は、南瓦町に昭和27年（1952）A棟4階建て24戸が、同28年（53）度B棟4階建て24戸が、同29年（54）度C棟4階建て24戸が建設された。3棟合わせて72戸の住宅が完成した。

この住宅も老朽化に伴い解体され、平成17年（2005）9月鉄筋コンクリート造7階建（一部5階建）1棟40戸の住宅が完成された。新しく建設された住宅は、一般世帯向（38戸）・身障者向（2戸）があり、エレベーターの設置・駐車スペースや消防活動スペースが設置されている。



県営住宅—ABCアパート—(南瓦町)

## 12 向山緑地の催し

### (1) うめまつり

向山緑地内の向山梅林園では、毎年1月下旬から3月中旬まで「うめまつり」が開催される。

平成17年度(2005)は、1月28日(土)から3月12日(日)まで開催された。向山梅林園は、東三河最大級規模の梅林園で、広さ1.3haの園内に27種377本の梅の木がある。園路には「うめまつり」と大書きされたのぼり旗が立てられている。

期間中の2月19日(日)は、いろいろな行事が行われた。

- ・ 10:00～ 苗木無料配布
- ・ 10:00～15:00 豊橋茶試飲即売会
- ・ 11:00～12:00 二川宿本陣雅姫・琴姫撮影会
- ・ 13:00～ 琴の演奏会
- ・ 11:00～・14:00～ 甘酒接待(各500杯)
- ・ 10:00～15:00 防火ふれあいキャンペーン  
消防音楽隊の演奏とホワイト  
シーガルの演技

うめまつりの主催は、春まつり実行委員会(向山校区総代会長が実行委員長)で行われている。「さくらまつり」や「つつじまつり」も同様である。

### (2) さくらまつり

さくらまつりは、豊橋市の「春まつり」の

一環として毎年3月下旬～4月中旬に行われる。平成18年(2006)は、4月1日(土)～16日(日)の期間中向山緑地公園で行われた。さくらまつりは、豊橋公園や岩屋緑地公園でも開催された。どの会場も桜の開花状況等に合わせ夜間照明が実施される。(午後6時～9時)

期間中は、次のような行事が開催された。

- ・ 4月1、2日 石木展  
豊橋石木協会主催
- ・ 4月2日 苗木プレゼント  
(財)豊橋みどりの協会
- ・ 4月2日 さくらまつりのど自慢大会  
春まつり実行委員会主催  
(株)エフエム豊橋主催

向山緑地公園での「さくらまつり」は、昭和52年(1977)から開催されている。公園には、17.13haの面積にソメイヨシノの木が約1,000本植えられている。

期間中は、春まつり写真コンクールが行われ、人出は、向山緑地で51,000人(2005年度)。

### (3) つつじまつり

向山緑地内向山大池周辺での「つつじまつり」は、平成18年(2006)4月22日(土)から5月7日(日)まで開催された。このまつりは、平成9年(1997)から開催されていてヒラド・オオムラサキ・ヨドガワ・クルメ・キリシマの5種類のつつじが植えられている。

主な行事

- ・ 豊橋総合いけばな展
- ・ 4月23日(日)午前10:00～  
春の花いっぱいサービス  
(先着順で春の花1,000個を無料配布)  
豊橋市民愛市憲章推進協議会
- ・ 4月22日(土)・23日(日)  
春の市民茶会  
(財)豊橋文化振興財団

期間中の人出は、約3,000人(2005年度)。

## 第3章 教育と文化

### 1 学校と幼稚園

#### (1) 向山小学校（豊橋市向山西町）

##### ① 沿革

向山小学校の始まりは、新川小学校の児童が増えすぎ、教室が足りなくなったので、その分校として建てられた学校である。

昭和31年（1956）11月に校舎の建築が始まり、翌32年（1957）4月に校舎の一部が完成し、新川小学校分教場として発足した。在校児童は1年生と2年生のみで、総勢398名の入学であった。新川小学校児童だけでなく、旭小学校児童の一部も入学してきた。3年生以上は新川小学校と旭小学校に通学していた。職員は、鈴木吾一分教主任始め9名が転任してきた。



向山小学校正門（向山西町）

翌年の昭和33年度（1958）には、新1年生と4年生が入学した。

昭和34年度（1959）に、新1年生と6年生が入学し、1年生から6年生までの全学年がそろった。同年、新川小学校の分校から独立し、22学級、1,173名の向山小学校が誕生した。

この児童数は、向山小学校の歴史の中で最高である。2番目に多いのは、昭和45年（1970）の1,161名であり、以後はだんだん減少し、平成17年度（2005）の児童数は414名である。

昭和37年度（1962）から、特殊学級が開設された。豊橋商業高校の裏にあった「杉の子学園」に毎朝教員が子どもたちを迎えに行き、学校の教室で勉強をした。

##### ② 校舎増築と学校施設

昭和32年度（1957）に第1期増築工事、同33年度（58）に第2期増築工事、同34年度（59）の第3期増築工事というように次から次へと増築が行われた。昭和35年度（1960）に校舎と管理棟がほぼ完成し、落成式が行われた。

全校舎とも、鉄筋コンクリート造りであった。これは、第2次世界大戦後、豊橋市内の小中学校の中で向山小学校が初めてであり、市内のモデル校に指定されたほど極めて近代的な建物であった。職員たちは、その校舎にふさわしく新鮮な校風樹立に全校をあげて精進していた。その後、昭和42年度（1967）と同45年度（70）に増築工事が行われ、家庭室、図工室や図書室などの特別教室が整っていった。

創立当時には、体育館やプールは、できていなかった。そのため、入学式や卒業式などの式は、運動場で行われた。学芸会は、豊橋市公会堂まで歩いて行って行われた。体育館ができたのは、昭和40年度（1965）であった。内部だけ仕上がった体育館で、第7回卒業式が行われた。プールができたのは昭和42年度（1967）であった。それまでは、狭間（今の

名豊の所)にあるプールまで歩いて行った。

向山小学校は最近の新設校とは違い、3年かけて校舎ができ、それから徐々に運動場周辺の環境整備が行われた。授業後、職員がつるはしやスコップを使って遊具や砂場などの体育施設の設置、樹木の移植、校庭の整地や学校花壇作りなどをした。

昭和42年度(1967)、たくさんの樹が校区に住む方から寄付され、学校の周りに植えることができた。昭和45年度(1970)、成人した時に再び母校に集い、恩師を囲んで一同に会する記念にと、「再会の碑」が建てられた。昭和52年度(1977)に、育てる教育活動を大切にしようというねらいで温室が作られ、主に花の苗作りのために使われた。

### ③ 給食調理場

給食調理場が開校当初から計画され、校舎の一番西の端に設けられた。エレベーターや最新の設備が整えられた給食室は、当時としては珍しく、各地から多くの参観者が訪れた。市の給食調理場が4か所作られても、向山小学校は単独調理場として50年近く続けられ、3人が協力して調理していた。しかし、平成18年度(2006)の2学期から市の給食調理場に統合され、豊橋市の学校には単独調理場がなくなった。向山小学校から給食調理場がなくなり、調理員さんたちは「皆と別れてしまうのが残念です。」と言っていた。



調理員さんによる給食づくり

### ④ むつみ園

むつみ園は、正門を入れて左側にある。昭和38年度(1963)に、卒業記念として6年生とその保護者や教職員によって作られた。池は三河湾を表し、川は豊川を表すというように、三河の地形を表している。豊川の上流から採集した岩石を、それぞれの産地にあたる位置に配置した。

むつみ園は、現在「むしむしランド」と呼ばれ、低学年の子どもたちが、虫たちと仲良しになる場となっている。2年生の子にはとても人気があり、放課になるといさんとんどでいく。男子は、石や木などを集めて虫のすみかを作る。女子は、草花などを集めて飾りを作る。お店屋さんごっこでは、2年生の子がここで作った物を1年生に分けていた。

### ⑤ 向山小学校の教育研究

向山小学校は、数々の教育研究やユニークな活動をしている。

昭和34年度(1959)、愛知県教育委員会より学校図書館研究の指定を受けた。昭和36年度(1961)、愛知県学校給食大会で給食優良校に選ばれた。昭和37年度(1962)、「運動技能を高める効果的学習指導」のテーマで体育研究発表会を行った。昭和43年(1968)には、「思考力を形成するための効果的な学習指導」のテーマで、算数の授業研究に取り組んだ。

昭和45年度(1970)、学年共同担任制が発足した。それは、同一学年の担任が自分の組の枠をはずして、皆でその学年を指導するというもので、教科担任制の一部導入であった。NHKが取材にきて、放映された。

昭和47年度(1972)、交通安全指定校になり、研究が行われた。この年、地域の方と教職員で作った掲揚塔に、交通安全標語で最優秀の作品が掲示された。

昭和56年度(1981)に理科教育全国大会が、平成10年度(1998)には全国小学校道徳教育

研究発表会が開催された。全国各地から多くの教員が参観し、向山小学校児童のすばらしさを讃えていた。

#### ⑥ 学校行事と部活動

昭和34年度（1959）、豊橋市立向山小学校として独立し、1年生から6年生までの全学年がそろった始業式が初めて行われた。この年度から、林間学校（鳳来寺2泊3日）や修学旅行（伊勢・志摩方面）が始まった。第1回卒業式が運動場で行われた。

昭和43年度（1968）、バスケットボール中央指導会で男子が準優勝した。昭和54年度（1979）、陸上競技指導会で男子が総合優勝した。昭和57年度（1982）、市内小学校水泳競技大会地区大会で女子が総合優勝した。平成16年度（2004）にサッカー大会Aグループで男子が優勝した。平成17年度（2005）には、女子が陸上競技大会で総合優勝と小学校水泳競技大会中部地区大会で総合優勝した。



サッカー大会（向山小学校）

昭和40年度（1965）から、修学旅行の目的地が京都・奈良方面に変更された。昭和46年度（1971）からは、野外教育センターでの宿泊訓練（5年生）が始まった。この年NHK合唱コンクールに出場し、優良校として表彰された。昭和47年度（1972）にも出場し、優良校となった。

#### ⑦ 運動会と学芸会

平成17年度（2005）から運動会を5月にした。たくさんの方が参観してくれた。学年種目では、1・3年は競争遊戯、2・4年は表現、5・6年はスタンプをした。全校で取り組む大玉送りもあった。児童会が取り組むダンスもあった。

家族で話し合いながら食べる昼食は、子どもたちにとってとても楽しそうである。午後の演技にも力が出る。



5・6年はスタンプ

向山小学校の学芸会は、学習発表会でなく昔ながらのスタイルを守っている。学芸会の方が、観に来てくれる人の評判がよい。朝早くから、たくさんのお年寄りたちも来てくれる。子どもの劇で感動し、涙を流すお年寄りもいる。

一生懸命にやった演技が成功したときは、教師も子どもとともに喜ぶ。子どもには、やればできるという自信ができる。皆の前で演技することはとても重圧がかかるが、やり遂げた後の満足感がすがすがしい。



4年生の劇「孫悟空」

### ⑧ 児童会

向山小学校には、ふれあい班と呼ばれる1年生から6年生までの縦割り班がある。児童会では、年2回行われる「ふれあい集会」と朝活動での「ふれあい班遊び」の運営を中心になって進めている。代表委員会を開いて活動内容について話し合ったり、活動を運営することにより児童のリーダーを育て児童会活動の充実を図っている。

「前期ふれあい集会」では「玉入れdeボン」というゲームを考え、1年生から6年生まで楽しく行うことができた。「後期ふれあい集会」では縄跳び大会のテーマ「みんなでピョンピョンピョン」やルールを皆の要望を取りまとめて決めるなど、自主的自発的に活動できた。



長縄での多人数跳び

毎週水曜日の「ふれあい班遊び」でも、常任委員会の子どもたちが中心となってゲームを運営している。高学年は低学年を思いやる気持ちを、低学年は高学年を尊敬する気持ちを育てている。

### ⑨ 大池公園や向山公園での学習

昭和55年度（1980）から、「ときはタイム」と名付け大池公園や向山公園の植物や動物を通して自然に親しみ、学習していた。今ではその名称はないが、総合的な学習の時間にさまざまな学習をしている。

向山の池は広くて、たくさんの動物がいる。4年生は、鳥に詳しい方から池にいる

野鳥について教えていただいた。この池に19種類もの多くの野鳥がいることに驚いていた。「カモの仲間がこんなにたくさんいて、びっくりした」「海ガモと淡水ガモでは、浮き方、飛び方、もぐり方に違いがある」「ユリカモメは季節によって色が変わる。子どもはくちばしが黄色くて、大人になると赤くなる」など野鳥についてたくさんを学習した。ここでは、魚や虫や木々についても学習している。



カモを観察する子どもたち

向山公園も、木や虫について学習できる場である。持久走大会の会場としても利用している。

2月の梅祭りの前に、1・2・3年生が、梅林園の掃除をしている。

5月には梅の実を拾わせていただき、生活科や総合的な学習の時間で、梅ジュースや梅干し作りをしている。



梅林園のそうじ

## (2) 豊橋商業高等学校 (豊橋市向山町官有地)



## ① 沿革

学校は、遠藤安太郎が私立豊橋商業学校(本科3年・予科1年)を渥美郡豊岡村(豊橋市瓦町不動院横)に明治39年(1906)に開校した。のち新川町市南の避病院跡に移転した。大正12年(1923)4月市立商業学校が東田町(東田小学校の地)に開校された。私立商業は、昭和8年(1933)3月に自然廃校となり、市立商業に吸収合併された。

昭和22年(1947)4月、6・3制移行に伴い(旧)東部中学校は、豊橋市向山町中畑の工兵隊跡に本部を置き東田教場(豊橋女子商業学校)・向山教場(豊橋高等女学校)・岩田教場(岩田小学校)などで、東田小学校・岩田小学校・多米小学校を校区として発足した。昭和23年(1948)9月(旧)東部中学校は、北部第二中学校と統合して、青陵中学校と校名が変更された。

昭和23年(1948)4月、豊橋市立実業高等学校(豊橋市立女子商業学校が豊橋市立実業高等学校となった)が工兵隊跡に移転して来たが、同年10月豊橋市立商業高等学校(昭和23年4月、豊橋市立商業学校が豊橋市立商業高等学校となった)が旧工兵隊跡に移転して来て合併し、豊橋市立商業高等学校となった。

昭和24年(1949)4月、豊橋市立商業高校

の全日制課程は、豊橋東・豊橋時習館・国府・蒲郡・成章・新城などの各高等学校商業課程へ移った。昭和26年(1951)4月、愛知県立豊橋東高等学校・愛知県立豊橋時習館高等学校の商業課程が統合されて、愛知県立豊橋商業高等学校が豊橋市向山町中畑の旧工兵隊跡へ開校した。昭和41年(1966)商業科・経理科としたが、同61(86)年商業科・経理科・情報処理科となる。平成5年(1993)には、国際経済科が加わった。平成16年(2004)、国際経済科が国際ビジネス科に、同17年(05)年には商業科が総合ビジネス科に変更された。

## ② 学校の概要

「信を以って本と為す」(しんをもつてもととなす)を校訓として、3万余名の卒業生を送り出してきた歴史と伝統を誇る実業課程の高校である。現在は、総合ビジネス科(1学級)国際ビジネス科(2学級:A、Bの2コース)経理科(2学級)、情報処理科(2学級)の4つの学科がある。

多くの資格取得の他、部活動(文化部・運動部)で大きな成果をあげている。

卒業生の多くは地元商業界の重要なポストで活躍している。

平成18(2006)年には創立100周年を迎えた。

100周年の記念式典は、平成18年9月9日にアイプラザ豊橋で開催された。式典のアトラクションとして、同校卒業生で世界的音楽家・喜多郎さんのトークショーが行われた。同校同窓会が中心となった100周年記念事業実行委員会は、4つの事業を行った。本館前に、クスノキを中心に四季の花々が咲き誇る「若人の森」を整備し、開校を祝って校訓旗を復元した。また、著名OB紹介記「二連木の人々」と、校史「豊商創立100周年記念誌」の2冊を刊行した。

【生徒数】(平成17年5月1日現在)

1年 男子76 女子204 計280(7クラス)

2年 男子76 女子202 計278 (7クラス)  
 3年 男子68 女子207 計275 (7クラス)  
 合計 男子220名 女子613名 合計833名

### ③ 象徴

“若人の像” “ヘルメス像” について 玄関前に大人と同じ背丈の石像があり “若人の像” といっている。昭和41年 (1966) 創立60周年を記念して建てられたもので、筑波大学の木村珪二先生の作品である。空に向かって伸びた両手の指先は「限りなく上へ向って伸びよう 昂まろう 大きくなろう」の思いを込めて向上と前進を意味している。

“ヘルメス像” は、平成8年 (1966) 創立90周年を記念して、第2産振棟の北側に建てられたもので、ヘルメスは、ギリシャ神話のオリンポス12神の一人で商業の守護神である。

### (3) 豊橋東高等学校 (豊橋市向山町西猿)



#### ① 沿革

昭和23年 (1948) 4月、6・3・3制移行に伴い愛知県豊橋第二中学校 (牛川町洗島) は、愛知県立青陵高等学校に、豊橋市立高等女学校 (向山町西猿) は豊橋市立高等学校となった。(第2章7 豊橋高等女学校参照)

昭和23年 (1948) 10月、愛知県立青陵高等学校と豊橋市立高等学校は統合して愛知県立豊橋東高等学校となり、豊橋市立高等学校

(向山町西猿) の校舎を使用することになった。

昭和24年 (1949) 4月、小学区制・男女共学・総合制の実施により普通課程、商業課程、家庭課程並びに別科の総合高等学校となる。

昭和26年 (1951)、愛知県立商業高等学校設置のため商業課程廃止、同29年 (54) 家庭課程被服科を設置した。昭和31年 (1956)、大学区制に改正され三河学区となる。翌年には別科を廃止し、被服科の募集を停止した。

昭和42年 (1967)、木造第2棟、第3棟の2階建てを取り壊し、鉄筋4階建とした。

昭和48年 (1973) 度より同63年 (88) 度まで豊橋東高等学校と豊丘高等学校で豊橋学校群第2群となり、平成元年 (1989) 3月より複合選抜制を実施した。

平成13年 (2001) 8月本館棟を改築した。

#### ② 学校の概要

「自主・協調・知性・教養・誠実・剛健」を校訓として、伝統の重みと輝かしい成果を挙げてきた。学習面での充実はもとより、運動部 (女子バレー、男子バスケットボール、女子弓道) や、文化部 (演劇、物理) の活躍は目覚ましいものである。

「開かれた学校」を目指し、学校の開放や学校近くの向山大池公園の清掃活動などを通じて地域社会に溶け込む努力を行っている。各種のボランティア活動に積極的に参加している。

施設は、本館棟・教室棟・体育館・武道場などがある。1学年8学級・2学年8学級・3学年9学級の普通科25学級である。(平成17年度)

豊橋東高等学校には、豊橋高等女学校・豊橋第二中学校時代のものを含めて多数の記念碑がある。代表的なものとして、「弓張り日の道萌ゆる 樹の姿 鴻村」創立80周年記念 昭和56年11月22日建之がある。

平成14年 (2002) には、創立100周年を迎

えて卒業生も3万人以上を数えた。

【生徒数】(平成17年5月1日現在)

1年 男子137 女子184 計321(8クラス)  
 2年 男子152 女子168 計320(8クラス)  
 3年 男子150 女子208 計358(9クラス)  
 合計 男子439 女子560 合計999(25クラス)

③ 創立100周年記念

明治35年(1902)年に豊橋町立高等女学校として誕生して100周年を記念して、平成14年(2002)11月23日記念式典を開催した。

記念事業の第1弾は、平成13年(2001)11月23日に豊橋勤労福祉会館で「第九(合唱)演奏会」を、第2弾は、同年12月の「男子バスケットボールJBLスーパーリーグ」の協賛である。

平成14年(2002)5月11日には、アカウミガメの保護を目的に遠州灘に面した市内の表浜海岸で「ビーチ・クリーニング」を行った。同年8月には、豊橋市美術博物館で同窓生による「ひがし100の精華」が開催された。

(4) 不動院幼稚園(豊橋市瓦町通1丁目)



不動院は、寺院内に昭和27(1952)年4月瓦町保育園を創設開園した。その後昭和31年(1956)4月、学校法人不動院学園「不動院幼稚園」とした。不動院幼稚園では、「未来へ伸びる、ピカピカの芽」をスローガンに掲げ、一人ひとりの子ども達に、繰り返し手を

差しのぼすことに重点を置いている。

園長 池野 英龍

園の施設(平成17年4月現在)

1. 敷地 2,783m<sup>2</sup>  
 2. 建坪 1,468m<sup>2</sup>  
 3. 定員 220名  
 4. 職員 14名(園長を除く)

5. 施設

(1) 保育室 12室  
 (2) 遊戯室 1室  
 (3) 医務室 1室  
 (4) 事務室 1室  
 (5) 仮設プール  
 (6) 主な遊具 複合遊具

6. 主な年間行事

春・秋の遠足、園外保育、七夕まつり、お泊り保育、運動会、豊橋まつり参加お遊戯会、作品展等

(5) 寿泉寺幼稚園(豊橋市瓦町通裏)



寿泉寺幼稚園は、昭和45年(1970)4月1日に創設開園した。寿泉寺幼稚園では、「豊かに心を開花させる」をスローガンに、1. 知育・体育・道徳・思いやり強い愛情で保育する。2. 社会生活になじんで行ける態度、善悪の判断ができる人間性を育てる。3. 科学する探求心、自然を大切にする心を育てる。に重点を置いている。

園長 伊藤 文代

園の施設(平成17年4月現在)

1. 敷地 1,308m<sup>2</sup>
2. 建坪 711m<sup>2</sup>
3. 定員 200名
4. 職員 7名（園長を除く）
5. 施設
  - (1) 保育室 6室
  - (2) 遊戯室 1室
  - (3) 医務室 1室
  - (4) 事務室 1室
  - (5) 屋内プール
  - (6) 主な遊具  
アンパンマン号、ロケット、複合遊具
  - (7) 体操、絵画、音楽、英語教育
6. 主な年間行事  
春の仲良し遠足、お泊り保育、大運動会、子育て講演会、親子遠足、カルタ大会、鳳来寺登山、子ども美術展、芋掘り、大根抜き、伝統行事（七夕会等）

## 2 宗教

### (1) 神社

#### ① 向山石巻神社（豊橋市向山町池下）

創立 明治初年  
祭神 大国主命  
末社 津島社

明治初年7戸の農家が雨ごい祈願のために八名郡石巻神社（豊橋市）の分霊を受け、小祠を建てて祀った



と伝えられる。昭和61年（1986）社殿・社務所を改築した。氏子は、向山東町・東向山1区～3区の4町内で、氏子戸数は1,285世帯である。境内坪数 299.26坪

#### ② 向山神明社（豊橋市向山台町）

創立 昭和40年（1965）

祭神 天照皇大神  
昭和40年（1965）、向山西町・向山台町・向山大池町に土地区画整理が行われるに際して、第一向山町内会（第一向山1区・2区・向山町）の氏神として東



田神明社を分祀したものである。氏子戸数は、434世帯で向山台町公園に隣接している。境内坪数 21.65坪

#### ③ 瓦町神明社（豊橋市瓦町通裏）

創立 寛文5年（1665）

祭神 天照皇大神  
豊受皇大神

境内社 秋葉社 琴平社 津島社  
猿田彦社 山之神社

寛文5年（1665）仁連木村名主佐藤彌七は東海道の瓦町村開発の許可を吉田城主小笠原長矩城主に受け、新村の鎮守として神明社を建立した。

瓦町開発覚および享保6年（1721）の社寺書上帳によれば、城主社地1反2畝余を除地とされた。安永4年（1775）2月、三州渥美郡瓦町村（豊橋市瓦町）に遷座の際、豊受皇大神を配祀した。明治5年（1872）10月村社に列格し、同40年（07）10月26日幣帛供進の指定を受けた。昭和33年（1958）8月本殿を造替した。

氏子は、瓦町1区～6区・東瓦町1・2区・池見町・老松町1区・住吉町1・2区の12町内で、氏子戸数は、1,385世帯である。境内坪数987坪



## (2) 寺院

### ① 不動院（豊橋市瓦町通一丁目）

不動院の開基は、久寿元年（1154）殿上人麻丸と伝えられている。麻丸は、吉田の仁連木村（豊橋市東田町）に老宇の不動堂を建て京都の安阿弥寺の不動尊を祀った。



元禄12年（1699）、時の吉田藩主久世重之より山号寺号の御免許を受け、聖休山任養寺不動院と命名された。元禄15年（1702）、中興の祖任盛法印が瓦町（開村の時）へ移転した。本尊は、任盛法印が雲谷普門寺から招来した伝覚鑊上人作の大日大聖不動明王である。

明治初期、不動院は一时无住の荒寺となり、貴重な寺宝や文献を失ってしまった。東田村誌（明治14年）によれば、不動院の規模は東西28間・南北36間、面積542坪で、永養開基創建すとある。明治17年（1884）豊橋に歩兵第18聯隊が創設され、関連事業として不動院墓地が買上げられ墓地を現在地に移転した。明治39年（1906）豊橋に合併される直前まで渥美郡豊岡村役場の戸籍事務取扱所が設置されていた。同年4月に不動院敷地内に私立豊橋商業学校が開校された。

昭和27年（1952）、高野山真言宗単立寺院となり同年4月1日住職池野英龍が、瓦町保育園を創設開園した。昭和31年（1956）不動院幼稚園となる。

園内には、推定樹齢300年以上のヤマモモの木（幹周273cm、高さ8.2m、枝張り9.3m×10.4m）が、墓地には、推定樹齢200年以上のスタジイの木（幹周361cm、高さ15.1m、枝張り13.5m×16.9m）がある。いずれも、「とよ

はしの巨木・名木」の100選の中に選ばれている。

建物としては、本堂・庫裏・山門等があり、境内には大師堂がある。

### ② 寿泉寺（豊橋市瓦町通）



鶴松山寿泉寺（臨済宗妙心寺派）の創立年代は不明であるが、開山は大津村（豊橋市老津町）桂昌寺の松山和尚である。延宝8年（1680）二代州山和尚のとき新規開発された吉田河原町（豊橋市瓦町）へ移転し、京都妙心寺派の証文を得た。

元禄6年（1693）、寺社奉行所から寿千寺の公称寺号を許された。正徳5年（1715）の河原町（瓦町）大火で類焼したが、この時、寿千寺を寿泉寺と改めた。天保年間当寺の聖翁和尚は、寺小屋を開いて子弟の教育に当たった。東田村誌（明治14年）によれば、寿泉寺の規模は東西16間・南北36間、面積222坪で、松山開基創建とある。明治後期、峯田実山和尚は宗徧流の茶道をよくし、多くの門弟がいた。宗派は、臨済宗妙心寺派である。

昭和20年（1945）6月20日の豊橋空襲で地藏堂・庫裏を焼失した。昭和29年（1954）開山堂の新築、同31年（56）事務所の新築や墓地の整理を行った。昭和45年（1970）、伊藤公照和尚が寿泉寺幼稚園（瓦町通裏）を開園した。続いて、みゆき幼稚園（東幸町東明）といずみ幼稚園（牟呂町百間）を開園した。

③ 見海寺（豊橋市伝馬町）



創立 慶長元年（1596）2月  
 宗派 曹洞宗  
 本尊 観世音菩薩  
 沿革

流水山見海寺は、元渥美郡赤羽根村大字越戸字大山（田原市）の地にあって赤羽根村巖王寺の隠居地となっていた。巖王寺は、戦国時代の田原城主戸田宗光の子の戸田新九郎が創立した寺である。巖王寺第4世高山昌運大和尚が隠居の地として、慶長元年（1596）2月越戸の大山に一字を創したのが見海寺である。大山の地は太平洋を下視し、山上至る所に清泉が沸いているところから、流水閣見海寺の寺名がついたのである。

田原藩は往時寺院の瓦葺を禁じているが、見海寺のみ村内唯一の瓦葺5間4間の古建築であった。その後も代々巖王寺の住持が隠居し、江戸時代は寺子屋を営み、維新後は青年学校を開き村人を教育した。

しかし、大正末年頃から寺勢衰え廃寺同様になったため、尾藤豪宗師は移転再興を発願し、海外巡錫の後、昭和10年（1935）豊橋市伝馬町に住居を建てて布教に従事した。昭和25年（1950）6月本堂の移転改築に着手し、同27年（52）に完了した。本尊の観世音菩薩像は赤羽根から招来したものであり、開山は巖王寺第4世高山昌運大和尚である。

④ 勘正寺（豊橋市大井町）

創立 昭和24年  
 （1949）  
 9月  
 宗派 浄土真宗  
 本派  
 本尊 阿弥陀如  
 来像

沿革

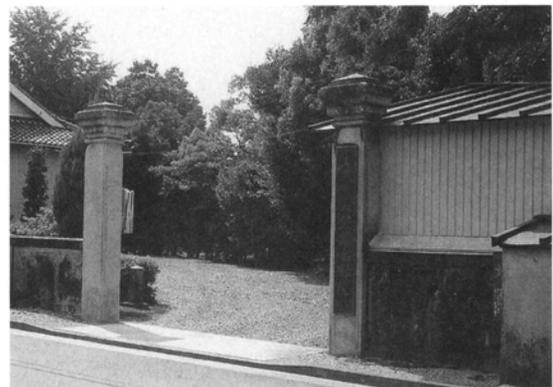
恵照山勘正寺の  
 創立は、昭和24年



であり、開山は恵照法師である。

恵照法師は、奈良県南葛城郡秋津村（御所市）真宗本願寺派教善寺に生まれたが、大正3年（1914）単身豊橋に来住した。はじめ瓦町字通に真宗教場を開き、布教に努め多数の信徒を得て大正10年（1921）瓦町南裏に移転し、さらに昭和7年（1932）、現在地に堂宇を建立し、寺院の様相を整えた。昭和17年（1942）、宗教団体法実施の際、浄土真宗本願寺派瓦町教会の認証を受け、戦後同24年（49）、公称寺院勘正寺となる。

⑤ 宝形院（豊橋市向山町南中畑）



創立 宝暦年間  
 宗派 真言宗醍醐派  
 本尊 十一面観音  
 沿革

摩尼山宝形院は、宝暦年間（1751～1764）に諄慶法印により創建された。当時は中世古

町にあり、真言宗修験派に属していた。

第七世中興蔓海讓和法印の時、神明町に移り醍醐派となる。第八世満通法印は、明治30年（1897）より高野山で日清戦争戦病死者の追弔法会を謹修していたが、日露戦争直後に戦役戦死病没者の英霊を弔祭し、護国鎮土の霊場たらしめんと発願、多数の賛同を得て、明治39年（1906）豊橋市花田町斎藤地内に敷地を用意し、同45年（12）仮本堂を創建、大正6年（1917）英霊殿本殿を創建した。

梅樹760本を植え栽培および貯蔵等の基礎として、女性の意識向上、精神修養を図るため報国婦人会を設立。出征軍人慰問のため、全国各地の災害被災民救助のため、貧困者救済のために梅干し等を寄贈した。戦時中仏具什器を供出、戦火を免れた。

第十世普正法印の時、都市計画のため宗教活動に不便をきたし、昭和35年（1960）6月に豊橋市向山町南中畑に移転し現在に至る。

### (3) 教会

**天理教・キリスト教** 天理教会としては、昭和2年（1927）豊橋市向山西町に設立された愛旭分教会と、同32年（57）5月豊橋市向山大池町に設立された愛昭斉分教会がある。

キリスト教会としては、昭和40年（1965）豊橋市向山東町に設立された日本バプテスト連盟豊橋キリスト教会がある。

この他、昭和26年（1951）神祖教元宮会館が豊橋市向山西町に開館された。

## 3 施設

### (1) 文化施設

#### ① 豊橋市民文化会館（豊橋市向山大池町）

昭和42年（1967）10月18日、豊橋市向山大池町に、図書館・集会室・展示室・ホールの機能を総合化した豊橋市民文化会館が建てられた。豊橋市立図書館は、豊橋市花田町守下



豊橋市民文化会館

に、大正2年（1913）1月15日に開館したが、道路（国道23号）建設のため、昭和13年（1938）5月2日、西八町に移転した。豊橋市立図書館は、昭和20年（1945）6月20日の空襲でも大きな被害はなかったが、豊橋市公会堂とともに市役所などに転用され、同年10月8日閲覧を再開した。

昭和42年（1967）10月18日、豊橋市向山大池町に移転して、豊橋市民文化会館となった。図書館資料と利用者の増加に対応して、独立した図書館が必要となり、図書館部門は、昭和57年（1982）11月6日、豊橋市羽根井町に新築移転して、豊橋市中央図書館となった。豊橋市民文化会館は、集会室・展示室・ホール・配本センター・閲覧室を備えた施設として残された。

豊橋市民文化会館を拠点として、豊橋文化協会が文化活動を行っている。豊橋文化協会は、昭和21年（1946）2月23日に発足して、豊橋商工会議所に事務所をおいていた。昭和42年（1967）10月18日には豊橋市民文化会館に移転し、同43年（68）4月1日、社団法人豊橋文化協会となった。さらに平成13年（2001）4月1日からは、財団法人豊橋文化振興財団となり、現在にいたっている。

## ② 交通児童館・向山交通児童遊園（豊橋市向山町池下）



交通児童館全景

交通児童館・向山交通児童遊園は、昭和44年（1969）5月豊橋市向山町池下の総合自動

車学校跡地（豊橋動物園跡）に向山交通児童遊園がつくられ、その一角に建てられた。その後、平成3・4年（1991・92）に全面改築し、同5年（93）5月2日リフレッシュオープンした。

新児童館は、鉄筋コンクリート造2階建て、延床面積837・20㎡で、1階に、コミュニケーションルーム（集会室）、プレイルーム（幼児遊戯室）、ワークショップ（工作室）を配置し、2階に遊戯室（卓球・体力づくり）や図書室を配置している。

屋外施設として、バッテリーカー広場、自転車練習場、アスレックス広場がある。「楽しみながら交通ルールが学べる」とし、自転車を使い右折や左折、一時停止、信号の渡り方などの学習ができる。幼稚園・保育園や小学校の子供たちを対象に交通安全教室を開催している。個人にも自転車などを貸出し、指導を行っている。

プレイルーム…幼児が室内で自由に遊べる。  
 ワorkshop…ぬり絵や工作ができる。  
 遊戯室…卓球やとび箱で体力づくりをしたり、映画会が開催される。



自転車練習場

## ③ ギャラリー・サンセリテ（豊橋市向山大池町）

豊橋市内唯一の企画画廊が向山校区にある。日本の多くの画廊は展示のためにスペースを提供する貸し画廊だが、画廊側が作家を選び

展覧会を催す企画画廊は少ない。向山大池町に昭和61年に開廊したギャラリー・サンセリテは国内外の名画や同時代性のある作品、時代を担う若手の作品、東三河地方を基盤として活躍した作家を扱う。

#### ④ 向山天文台

向山天文台は、昭和23年（1948）豊橋市向山町西猿に金子功が自作の15cm反射望遠鏡を設置「金鈴観象台」として発足した。昭和28年（1953）に建物を新設し「豊橋向山天文台・大池児童館」と改称、同30年（55）30cm反射望遠鏡新設、同32年（57）本格的プラネタリウムを完成した。

昭和47年（1972）、豊橋の光害が著しくなり天文観測が不能になったために北設楽郡東栄町に移転した。

当時の料金は、プラネタリウム：小人20円、学生30円、大人40円、天体観測：昼20円、夜小人30円、大人50円であった。



向山ドーム前のテープを切る中日ミス・カメラ  
(昭和32年)

#### ⑤ C B C 向山放送局

C B C 向山放送局は、昭和29年（1954）3月中部日本放送株式会社が豊橋市向山町一本松に開設した豊橋中継放送局である。JOAE 1,460kHzで放送を開始した。昭和31年（1956）4月豊橋放送局と改称し、同39年（64）4月U H F テレビ局（C B C 62Ch）が本宮山頂に開局した。昭和53年（1978）11月、C B C 向

山放送局は、1,485kHzに変更された。平成13年（2001）3月豊橋ローカル波番組は制作中止となりC B C 向山放送中継所は閉鎖された。



C B C 向山放送局

#### (2) 向山緑地公園、近隣公園

豊橋市の東部に位置する向山は、畑地であった。戦前は工兵隊作業場や動物園があったが、昭和34年（1959）向山小学校が開校されて街区が形成された。それに伴い、昭和41年（1966）、大池池畔一帯を整備して向山緑地（17万1300m<sup>2</sup>）が開設された。向山緑地は、向山公園、大池公園、梅林園の3公園からなる。

向山公園は、向山台地につくられ、市街地を眺めることができ、戦後多数の桜が植えられた。向山公園の東側には、東三河最大規模の向山墓苑（2万2,000m<sup>2</sup>）がある。園内に昭和4年（1929）3月に建てられた「聖蹟」碑がある。この碑は、昭和2年（1927）陸軍特別大演習の折、昭和天皇が臨幸され、八町練兵場において御親閲があり、向山のこの地から本市を展望されたことを記念して建てられたものである。また、「平和の塔」慰霊碑がある。さらに東側に隣接して梅林園がある。

大池公園には、豊橋市民文化会館（第3章教育と文化3施設（1）豊橋市民文化会館参照）がある。大池公園の北側には世界遺産などを模した建造物がある。大池の南側に交通児童館の施設がある。

近隣公園として、向山台町公園、向山大池町公園、向山西町公園、向山東町公園、宮本公園、南瓦町公園、前田東公園がある。



南瓦町交差点 (三角公園)

《健康の道「文化つつじコース」》



健康の道は、散策路として住民の健康づくりに役立っている。

「文化つつじコース」は、市の花「ツツジ」にちなんで名付けられた市内で最初の健康の道で、平成5年(1993)に設置された。

総延長6.0kmあり、市民文化会館から中間地点の幸公園・福東緑地を通り住宅街を縫うようにして歩く。

《街路樹》

向山校区には、前田町2丁目から県道豊橋環状線の豊橋市民文化会館前までの両側にプラタナスが、向山緑地南西角から国道1号の殿田橋までの両側にケヤキが植えられている。



プラタナス(鈴懸の木)は、落葉後、実(集合果)が鈴のようにつり下がるようすから「スズカケノキ」と呼ばれ、世界4大街路樹の一つに数えられる。明治初期、移入された落葉高木で、日本で見られる樹種には、スズカケノキ・アメリカスズカケノキ・モミジバスズカケノキが植えられている。

Platanus

スズカケノキ科

スズカケノキ



スズカケノキの実



アメリカスズカケノキ モミジバスズカケノキ

ケヤキは、春の淡い黄緑色の芽だし、夏の緑陰、秋の紅葉と黄葉、冬の落葉した樹形など四季を通して美しい姿を見せるので昔から親しまれてきた樹木である。



イチョウは、夏は緑色、秋は鮮やかな黄葉が美しい樹木である。樹形は、ほぼ円錐形で病虫害も少なく、大気汚染にも強い。古来より防火樹として利用されてきた。

### (3) 都市施設

#### ① 豊橋警察署向山交番（豊橋市向山町中畑）

向山交番は、昭和23年（1948）10月1日、向山派出所として旧陸軍兵舎の古材を使用して向山町中畑に建設された。当時の東向山1・2・3区の総代や石川蹟次郎や花井蚕糸社長などが請願した結果設置されたものである。向山交番ができるまでは、向山は西新町派出所、瓦町は東田派出所管内であった。向山校区の誕生により瓦町1～6区・東瓦町1～2区も向山派出所の管内となった。その後、建物が老朽化したために、昭和57年（1982）12月新築され現在に至っている。

平成6年（1994）11月1日、向山派出所が、向山交番と名称が変更された。



#### ② 火葬場・墓地・避病院

**火葬場** 明治39年（1906）、市営火葬場を向山町西猿に新築したと言われている。当時は、若葉式火炉10個を有していた。その後、昭和7年（1932）11月10日、近代的な火葬場が飯村町北池上に開設された。

**向山霊園（豊橋市向山町塚南）** 向山霊園は、昭和25年（1950）6月、豊橋市向山町塚南に開設された。敷地面積6万4,056㎡、区画数4,723基（内再貸出し161基）。

**避病院** 避病院は、明治中期から昭和前期に伝染病患者を隔離収容した伝染病院の別称である。

豊橋の避病院は、明治19年（1886）愛知県の「避病院仮規則」の布達をうけ県下有志投資によって新川町市南（中部電力豊橋営業所）に開設された。明治28年（1895）向山町台（向山台町公園）に移転した。大正11年（1922）市立伝染病院を三ノ輪町本興寺に新築移転した。

昭和32年（1957）、豊橋市民病院全面改築により、隔離病棟が整備されて、三ノ輪町本興寺の市立伝染病院は閉鎖された。

#### ③ 変電所（豊橋市向山町三ツ塚）

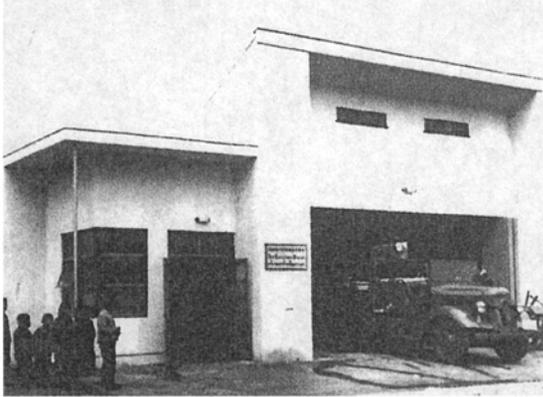
昭和16年（1941）豊橋・下地・牟呂・野田の4変電所が中部配電に所属した。昭和22年（1947）植田変電所が、翌23年（48）中部配電向山変電所が使用開始された。

昭和26年（1951）9配電会社が9電力会社に再編され、日本発送電・中部配電で中部電力が設立された。

#### ④ 消防署東部出張所

昭和25年（1950）1月22日、消防署東部出張所が瓦町に開設された。木造瓦葺平屋建て。開設当時職員は、消防士長2名、消防士8名の合計10名で発足した。消防ポンプ自動車と水管車各1台を配備し、豊橋市東部の東田・牛川・下条・多米・岩田方面を管区とした。

東部出張所は、昭和53年（1978）3月31日中岩田二丁目へ移転し東分署に昇格した。



消防署東部出張所

#### (4) スポーツとスーパーマーケット

##### ① 向山運動広場（豊橋市向山町池下）

向山運動広場は、昭和59年（1984）5月、豊橋市向山町池下に開設された。ソフトボール1面の施設で、5,093㎡の敷地である。平成元年（1989）8月に夜間照明4基が設置され、照度313ルクスの明るさを有している。年間利用者は、1万5,000人である。

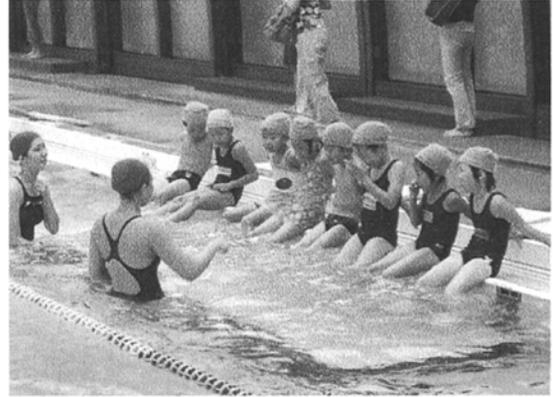
##### ② 豊橋スイミングスクール（豊橋市向山町塚南）

豊橋スイミングスクールは、豊橋市内2番目のスイミングスクールとして、昭和45年（1970）3月3日に豊橋市向山町塚南に開設された。25m×7コースの温水プールで、建屋は開閉式ドームで、天井が高く、開放感溢れる施設である。

平成11年（1999）9月24日に、豊橋市内を襲った竜巻によりプール棟が被災し約1ヵ月間の休館となったが、同年11月1日に営業が再開され現在に至っている。

開業当初からの会員数は、1万5,000人を超えており、子ども向けの指導では高い評価を受けている。選手コースは、東三河トップレベルにあり、平成12年（2000）には成人向けの強化を図った。コナミスポーツとパート

ナーシップ契約を締結している。翌年から、成人向け会員制度「CLUB TSS」を開始した。プール・スタジオで週100本以上のプログラムを自由に利用できる。



豊橋スイミングスクール

##### ③ コナミスポーツクラブ豊橋（豊橋市向山町川北）

コナミスポーツクラブ豊橋は、豊橋市向山町川北に平成14年（2002）10月、開設された。施設としては、プールが2面（25m×3コース、20m×2コース）、エアロピクス・ヨガができるスタジオ、マシンジムなどがある。

##### ④ アピタ向山店（豊橋市向山町中畑）

昭和43年（1968）3月8日、8,000坪の敷地に向山ボウリング（86レーン）が開設された。昭和50年（1975）、ボウリング場の建物を利用して「ユーマート向山店」としてオープン、昭和53年（1978）に「ユニー向山店」と改称した。昭和60年（1985）には複合商業ビル・マイルストーンが建設された。

その後、店舗の老朽化と売場・駐車場の確保と、高品質の品揃えのために、平成9年（1997）9月26日「アピタ向山店」として建て替えオープンした。延べ床面積1万5,000坪、営業面積5,600坪、売場2フロア、立体駐車場3フロアの1,500台、テナント47店舗、総従業員数約600人で全国のユニー・アピタ店舗のトップ10に入る実績をもっている。

平成17年（2005）には、「携帯電話ショッ

プ」を拡大充実させたり、「介護用品ショップ」をドラッグストア内に新設した。

東玄関前に「郵便ポスト」を設置したりして、物販だけでなく地域への協力や環境問題へ取り組むなどしている。

⑤ マイルストーンビル（豊橋市向山町中畑）

マイルストーンビルは、昭和60年（1985）豊橋市向山町中畑に複合商業ビルとして建設された。ビル内には、豊橋信用金庫向山支店の他医療関係の店舗や美容・喫茶店等10店舗が入っている。



マイルストーンビル



アピタ向山店

### (5) 瓦町郵便局（豊橋市瓦町通2丁目）

瓦町郵便局は、昭和16年（1941）12月21日に瓦町交差点の国道1号沿いに開局、昭和55年（1980）10月に豊橋環状線沿いに移転した。



瓦町郵便局

### (6) 金融機関

#### ① 名古屋銀行瓦町支店（豊橋市瓦町通1丁目）

名古屋銀行瓦町支店は、昭和41年（1966）10月20日、瓦町通に豊橋市民信用組合瓦町支店として開設された。昭和45年（1970）4月1日豊橋市民信用組合は名古屋相互銀行と合併し、名古屋相互銀行瓦町支店となり、平成元年（1989）2月1日、名古屋銀行瓦町支店となった。



名古屋銀行

#### ② 豊橋信用金庫向山支店（豊橋市向山町中畑）

豊橋信用金庫向山支店は、昭和60年（1985）11月、向山町中畑へ開設された。



豊橋信用金庫向山支店

#### ③ 豊川信用金庫瓦町支店

豊川信用金庫瓦町支店は、昭和43年（1968）3月瓦町通へ開設されたが、平成16年（2004）10月に三ノ輪支店（昭和55年10月開設）へ統合された。

## 4 伝説と伝承

### (1) 宮裏のお地藏様



瓦町のお宮さん（瓦町神明社）の北裏の辻に、いつの頃からかは定かでないが、小さな可愛い六体のお地藏さんが祀られていた。村人たちはたいそう熱心にお守りしておった。

ある年、村は大きな台風に襲われ、六体のお地藏さんはみんな流されてしまった。村人は大急ぎであちこち探し回ると、あちらの畑、こちらの田圃、そして川底からも見つかった。村人は泥まみれになったお地藏さんをきれい

に洗い祀った。しかしどうしても五体しか見つかからない。仕方なく六地藏ならぬ五地藏を手厚く祀ることにした。

それから半年くらい経った頃、お民という娘が重い病気にかかり、その熱は一向に下がらない。母のさだは、五体地藏さまに願を掛けた。満願成就を願う十日目の前夜、お民の傍らで添い寝をしていたさだの耳元で声がした。「私は去年の秋の台風により宮の裏の辻に埋もれてしまった童子地藏です。どうか私を見つけてください。そうすれば娘さんの病気は快復します。」さだは急いでお宮の裏を探すが見つからない。その時ふと思いついた。「昔、乳飲み子の民を負ぶってお地藏様に参った時はもっと北の方にあった気がする。」台風の後の混乱で祀る場所が少し変わってしまったのだ。

さっそく村人たちと以前祀られていた辺りを探した。すると「見つかったぞー。」さだは民の体を洗ってやるかのように地藏をきれいに洗ってやった。そして手を合わせて祈り続けた。すると、民の病気はみるみる良くなった。さだも村人も「お地藏様のお陰じゃ。」と何度も頭を下げた。

それ以来、瓦町の宮裏の六地藏様は子安地藏と慕われ続けている。

## (2) 大池の水神様

向山の大池の近くに、美しい娘が優しい両親と幸せに暮らしておった。ある年、ひどい干ばつで村の田畑は干上がった。そんなある日、父と娘が大池の近くを歩いていると、一か所だけ青く澄んだ水たまりがあった。見ると小さな蛇が鎌首を持ち上げている。これはきっと大池の主と違いないと思った父は、「お前さんが雨を降らせてくれたら、娘を嫁にやってもよいが。」と話しかけた。蛇はうなずき姿を消した。すると、それから間もな

く、石巻の方から空一面に黒雲が広がり、ざあざあと雨が降り始めた。あつという間に大池の水はあふれ、遠くの田圃まで行き渡り、村はすっかり緑に包まれた。

それから数日後、立派な若者が父娘の家を訪ねて来てこう言った。「私はあなたの願いを叶えた蛇の化身です。約束通り娘さんを貰いに来ました。」父はたいそう驚いたが、娘は、「約束は守らにゃあいかん、私はこの人に嫁ぎます。」そう言って娘は出ていった。

ある日、夫婦が仲良く両親の家に遊びに来た。その夜、「私らはもう寝るけど、絶対に部屋の中は見ちゃあいかんよ。」娘は念を押した。しかし、両親は夜中にこっそり襖越しに部屋の中を覗いてしまった。すると、そこには大蛇が二匹、部屋いっぱいにくねくねとしっかり絡み合っていて寝ていた。

朝になり、娘は悲しそうに言った。「あれほどお願いしたのに、私らの姿を見られた以上は、もうここへは来られません。その代わり大池の水は皆が困らんように一杯にして田圃に流すでね。」そう言って出ていった。

それ以来どんなに雨が降らない日も続いて、大池には満々と水があふれ、田畑は潤い、村の衆は水に不自由することはなかった。皆は大池の主のお陰だと、水口に常夜灯を建ててお祀りした。今でも池の西のほとりにその常夜灯がお地藏さんと並んで立っている。



藤井英夫 画

### (3) 梅屋敷物語

第2次世界大戦前、瓦町に梅屋敷と呼ばれた家があった。大きな邸宅で庭も広く、沢山の梅が植え込まれていたので、梅屋敷と呼ばれるようになった。

しかし、庭内にただよう不気味な、陰惨な空気は、何も知らぬ者にすら肌寒い思いを与えずにおかなかった。朽ちかけて屋根の上が苔むし、草がはえていたその家の縁の下からは、蛇や野良犬や捨て猫などの死骸が異臭を放っていた。

むかしこの家に、老婆とその息子夫婦が住んでいた。息子の嫁は気性が激しく我がままだったので、常に老婆に強く当たっていた。これに引き替え老婆は昔風のおとなしい性格だったので、抵抗することもなく耐えていた。夫たる息子が嫁を諫めるべきだったが、母に似て彼もあまりに温和でありすぎた。嫁いじめの話はよくあるが、姑いじめは珍しい。この気の強い恐るべき嫁は、ついに老婆に腕力を加えるようになった。耐えかねた老婆は、息子の不甲斐なさや嫁の暴挙を憎んで、或る夜、意を決して庭内のつるべ井戸に投身自殺をしてしまった。

それから毎夜、1時か2時ごろ、地上のすべてが静寂の庭に眠る時分になると、つるべのカラカラと廻る音が気味悪く鳴った。さすが気丈の嫁も思わずゾーッと肌に粟を生じ、はじめて我が身の不心得を知ったのであった。

しかしその時はすでに遅く、或る夜、それも老母の死んだ同時刻に、半狂乱となって嫁も同じ古井戸に飛び込み断末魔の悲鳴を残して死んでしまった。それからまた間もなく、息子も物に憑かれたように、この井戸へ身を投げた。

それ以後、この梅屋敷は住む人もなく、いたずらに古び朽ちていったが、深夜になると相変わらずカラカラというつるべの音がした

という。

その後、この家に住む人が2、3あったが、いずれも病人を出したり、つるべの音にうなされて、長くは続かなかったという。

戦時中、或る軍人が「お化け屋敷とは面白い、おれが住んでみよう」と大和魂の意気を見せて乗り込んで来たが、10日もすると青くなって、コソコソ引き上げたという。

その後、昭和20年6月20日の豊橋の空襲に遭い、このお化け屋敷もきれいに焼けてしまった。今では、この屋敷の中を国道1号が通っている。

## 5 人物

### (1) 池野英龍 (いけのえいりゅう)

池野英龍は、明治44年(1911)1月31日、不動院住職池野英純・秋枝の長男として、豊橋市瓦町で生まれた。父は、高野山の地藏院副住職で、管長付であった。東田尋常小学校を卒業、豊橋商業学校3年で高野山中学(和歌山県高野山)に転入した。高野山大学予科1年の夏に、イギリス大使館付武官のアダムス・ベック女史が、龍光院(中院御坊)にいた池野英龍を京都北野の仏教専門学校に入学させた。のち、龍光院道場で3か年修業し、瓦町へ戻る。



父池野英純は、池野英龍が9歳の時(小学校3年)破傷風で死去した。高野山派遣で不動院の住職であった。弟子が、不動院の住職になった。

昭和15年(1940)、豊川海軍工廠総務部教育班(判任官)に奉職する。昭和20年(1945)10月5日、豊川海軍工廠の解散により不動院の住職となり、同23年(1948)不動院代表役

員となる。昭和27年（1952）、高野山真言宗単立寺院となり、同年4月1日瓦町保育園を創設開園する。昭和31年（1956）幼稚園に転換し不動院幼稚園と命名し、園長となる。

向山校区発足後、昭和34年（1959）度から向山校区社会教育委員長となり、昭和48年（1973）までの15年間務めた。

昭和34年5月豊橋市議会議員となり、同38年（1963）、42年（1967）、46年（1971）4期連続当選する。昭和47年（1972）副議長となる。

昭和50年（1975）11月3日、地方自治の貢献により市長表彰を受賞、同51年（1976）11月9日園長勤続20年をもって愛知県私立幼稚園協会より表彰を受けた。昭和58年（1983）春、勲5等瑞宝章を受賞する。

池野英龍は、雲谷町の普門寺住職を16年間兼務した。豊橋仏教会会長、豊橋市幼稚園協会会長、豊橋市幼児安全クラブ連合会会長、吉田宿を考える会会長などを歴任した。

## (2) 石川躋次郎（いしかわせきじろう）



石川躋次郎は、明治26年（1893）10月3日、埼玉県北埼玉郡中条村（熊谷市）の樋口綾三郎の二男として生まれた。

大正6年（1917）東京高等蚕糸学校製糸科を卒業、郡是製糸に入社した。

大正8年（1919）石川美恵と結婚、石川竜蔵の養子となり、埼玉県入間郡豊岡町（入間市）の石川組製糸所の分工場・三州石川組製糸所（豊橋市向山町）の経営を任せられた。

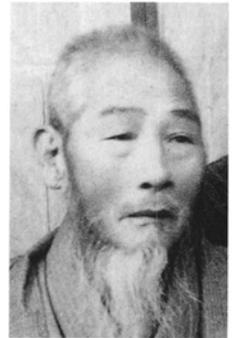
大正10年（1921）キリスト教に入信、復活祭に受洗した。大正12年（1923）関東大震災で横浜に在庫の生糸約1年分を焼失し、昭和初年の不景気で経営が悪化した。昭和12年

（1937）から工場の乾燥機を利用して、陸海軍の乾燥野菜を作り、第2次世界大戦終戦まで続行した。第2次世界大戦後は生糸に復活するが、昭和30年代には不良債権の発生、合織の進出などで経営内容が悪化し、製糸部門を縮小して、ナイロン加工を行った。

第2次世界大戦前後を通じて日本製糸協会・愛知県製糸協会会長、豊橋商工会議所副会頭などを歴任した。昭和41年（1966）3月14日、没した。

## (3) 小柳津友治（おやいずともじ）

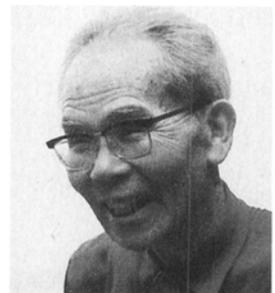
小柳津友治は、小柳津忠民（天保2年12月10日～明治36年3月3日）の長男として文久3年（1863）8月26日、渥美郡大崎村（豊橋市大崎町）に生まれた。明治26年（1893）、渥美郡豊岡村（豊橋市瓦町）で500羽規模で鶏の飼育を開始した。



友治は、アメリカから白色レグホンを輸入し、年平均産卵量平均220個の種鶏を供給した。昭和初年には、二男・小柳津二郎、三男・小柳津三郎（明治27年11月6日～昭和38年12月21日）が初生雛を供給する孵卵器を備えた。小柳津友治は、昭和18年（1943）8月26日、没した。

## (4) 金子 功（かねこいさお）

金子功は、大正7年（1918）5月14日、渥美郡二川町（豊橋市）で生まれた。豊橋中学校を卒業。昭和8年（1933）12月20日中学校3年の時、



土星と金星と地球が重なる現象を見て以来星のとりこになる。

中学校卒業後独学で教員資格を取得する。昭和16年（1941）応召、陸軍自動車学校で技術教育を受ける。召集解除後、玉川学園の教員、航空機乗員養成所教官などを歴任する。

昭和23年（1948）秋、豊橋市向山町西猿に手作りの天文台を作り、市民に開放する。昭和47年（1972）、北設楽郡東栄町に移転し、同50年（75）御園高原自然学習村を創立した。

山村文化研究所、金子天文台を主宰。昭和51年（1976）、中日社会功労賞を、同54（79）愛知県文化功労賞を受賞する。

#### (5) 小坂英一（こさかひでかず）



小坂英一は、昭和8年（1933）8月13日、小坂秋之助の三男として、豊橋市中柴町に生まれた。昭和27年（1952）時習館高校卒業。昭和32

年（1957）慶応義塾大学経済学部を卒業する。

大阪高島屋に勤務、永田鉄工所取締役となり、昭和52年（1977）新自由クラブ事務局長に就任した。この間、昭和44年（1969）豊橋青年会議所理事長、同47年（72）日本青年会議所副会頭になった。

東三河開発懇話会専務理事・副会長となり、平成9年（1997）から同13年（2001）まで東海日日新聞社社長であった。その後、東愛知新聞社の顧問を務めた。中央と東三河のパイプ役として地域振興に尽くした。

平成17年（2005）10月13日没した。享年72。

#### (6) 佐藤弥七（さとうやしち）

佐藤弥七は、瓦町の庄屋（貞享4年10月～）で、鎮守神明宮の神主を兼ねていた。親は、

仁連木村の佐藤弥八郎で、瓦町の開発を願い出たが許可にならなかった。その翌年小笠原山城守が、臨濟寺を建立した。寛文4年（1664）に瓦町村の開村が許可になった。佐藤弥七郎は、延享元年（1744）ころ「河原町村開発覚」を書いた。この覚えは、寛文2年（1662）から延享2年（1745）8月までの84年間にわたる瓦町の開発・発展を記したものである。

その子孫の佐藤憲一（明治37年4月14日～平成4年8月22日）は、新川小学校の教員を務めた。昭和26年（1951）には、豊橋市議会議員となった。

#### (7) 豊田珍比古（とよだうすひこ）

豊田珍比古は、明治15年（1882）9月5日、八名郡舟着村吉川（新城市吉川）で伊之吉の長男として生まれた。初名は伊三美といい、後に珍彦と称したが、晩年には珍比古と改名する。



明治42年（1909）豊橋に転居、船町で豊橋市初代市長大口喜六が営んでいた薬種商を譲り受けた。薬種商を営む傍ら、考古学、歴史、郷土史の研究を始める。大正10年（1921）豊橋郷土史友会を結成し主宰となり、豊橋市史編纂委員になる。その後、豊橋趣味会が大正15年（1926）11月に発足した。代表者は、舟橋水哉（号三舟）がなる。

昭和10年（1935）、瓦町に転居し、郷土史に関する執筆活動に入った。昭和29年（1954）には豊橋市制50年史編纂を囑託され委員長となる。

「古代の東三河」「東三河道中記」「吉田のおんぞ祭」「神道大義」「東三河ところどころ」「三河百話」「和名鈔東三河郡郷之研究」

など多数の著書がある。「豊橋市史稿」や「空襲日記」などの稿本を残した。(豊橋市中央図書館所蔵)

昭和35年(1960)、中部日本新聞社から「第8回中日社会功労賞」を贈られる。

昭和40年(1965)1月20日没した。

### (8) 丸山 薫 (まるやまかおる)



丸山薫は、明治32年(1899)6月8日、父の任地大分市で生まれた。父・重俊は熊本藩士の家に生まれ、内務省に勤務した。

丸山薫の出生時は、大分県警察部長であった。その後、島根県知事となったが、明治44年(1911)病気のため死去した。そのため母・竹子の父・市川信順の屋敷(豊橋市瓦町字通)に住んだ。豊橋市八町尋常小学校6年に転入、愛知県第四中学校卒業。東京高等商船学校に入学したが、病気のため退学した。

大正10年(1921)、第三高等学校文科丙類に入学し、同15年(26)には、東京帝国大学文科に入学し同人誌「新思潮」(第9次)に参加した。

昭和3年(1928)大学を中退する。同年愛知県知立市の高井三四子と結婚する。昭和7年(1932)第一詩集「帆・ランプ・鷗」を刊行した。

昭和20年(1945)疎開先の山形県西村山郡岩根沢村(西川町)の岩根沢小学校で3年半教員をし、昭和23年(1948)豊橋市東田町東前山に転居した。

昭和29年(1954)、第5回豊橋文化賞を受賞した。昭和31年(1956)、豊橋市多米町蟬川に転居した。昭和32年、現代詩への貢献と後進の指導によって、第15回中日文化賞受賞、

昭和34年(1959)、愛知大学客員教授となる。

丸山薫は、学生時代を含めて東京に15年間、豊橋市に35年間、山形県西村山郡岩根沢村西川町に4年間、その他各地を転々としたが、小中学校は豊橋で過ごし、結婚式もこの地で挙げた。

昭和49年(1974)10月21日没した。享年75。墓所は、牛川町西側の正太寺にある。

丸山薫の作品には、第一詩集をはじめ「鶴の葬式」「幼年」など16冊の詩集と、短編小説集「蝙蝠館」、エッセイ集「蟬川裸記」、その他多くの詩集がある。

昭和56年(1981)年、豊橋市高師町北原の高師緑地公園に詩碑が建てられた。また、山形県岩根沢に丸山薫記念館が建てられている。



丸山 薫詩碑 (高師緑地公園)

# 参 考 文 献

向山校区の今昔（向山校区20周年を記念して）  
向山校区四十周年によせて  
向山と瓦町の歴史  
向山20年のあゆみ  
向山30年のあゆみ  
新川小学校85年のあゆみ  
豊橋めぐり  
豊橋整地事業誌  
豊橋の町名の変遷（ちぎり文庫第11集）  
豊橋の町名の変遷 補遺—豊橋の町内会名の変遷—  
動物園ものがたり  
東三河の戦争遺跡  
三遠南信の乗合自動車  
豊橋空襲体験記

向山校区20周年を祝う会 会長 古田晶治  
向山校区総代会長 竹田光男  
吉川利明  
豊橋市立向山小学校  
創立30周年記念誌 豊橋市立向山小学校  
豊橋市立新川小学校  
吉川利明  
豊橋整地事業誌編集委員  
吉川利明  
吉川利明  
豊橋総合動植物公園 イベント開催実行委員会  
吉川利明  
吉川利明  
豊橋空襲を語りつぐ会

## 編 集 後 記

豊橋市制100年という記念すべき節目に、校区を見つめ直す機会を与えられたことは大変意義深いことでした。「市」を語る時、校区単位の特徴を比較することは、学術的にも非常に重要なことであります。編集会議は向山小学校敷地内の校区市民館で何度となく開催されました。まず決めたことは、編集委員全員に原稿を割り振ることでした。専門の先生一人に調査、執筆をお任せするのではなく、一人一人が責任を持って調査をする姿勢で臨んだのです。そして、出来るだけ現在のありのままの姿を記すよう努めました。回を重ねる毎に校区民としての連帯感が生まれ、校区を愛する思いも増していました。調べる程に過去は新たな発見となり、現在は空気のようなものであることにも気づきました。未来はどうでしょうか。次の編纂の節目には現在が過去になっています。その時我々はもう居ないでしょう。若者たちよ、いつまでも地域を愛し、誇りを持っていてください。本誌がその一助になることを切に願います。

平成18年12月 向山校区史編集委員会

### 向山校区史編集実行委員

#### 編集委員

委員 長	中尾 眞次	石川 孝司	大井 道代	川口 満	小坂 晃子
	豊田 俊充	福井 久満	松田 幸一	山本 良一	吉川 利明
サポーター	都築 久幸				
協力者	石川 誠	牛田 茂	鈴木 義之	藤井 英夫	

#### 校区のあゆみ 向山

平成18年12月25日発行  
編 集 向山校区総代会  
向山校区史編集委員会  
発 行 豊橋市総代会  
印 刷 株式会社 ぎょうせい

r2100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH  
SOY INK  
Trademark of American Soybean Association



